

最新がん統計

福井県のがん登録状況

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 21（2009）年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期 平成 25（2013）年 2 月 24 日現在

罹患年月日の決め方

- ① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする
- ② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

- ① ICD-0-3 分類の性状 2（上皮内），3（悪性、浸潤性）で示される新生物
- ② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1（良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍）で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺のいずれかに該当するもの

■ 福井県がん登録の概況

表 1 福井県がん登録の精度の推移（標準集計） 昭和 59 年～平成 21 年

年	人口	悪性新生物		届出精度		診 断 精 度			自主的届出登録率 (%)
		罹患数 I	死亡数 M	DCO (%)	I / M	HV / I (%)	HV / R (%)	MV / R (%)	
S59～S61	816, 570	2, 682	1, 368	6. 8	1. 96	68. 4	73. 4	78. 3	80. 6
S62～H 1	821, 764	2, 852	1, 486	1. 9	1. 92	75. 4	76. 9	81. 6	81. 3
H 2～H 4	824, 131	3, 092	1, 582	2. 9	1. 95	72. 2	74. 4	79. 4	79. 7
H 5～H 7	826, 065	3, 409	1, 690	3. 8	2. 02	70. 5	73. 3	79. 9	83. 2
H 8～H10	827, 841	3, 830	1, 927	5. 3	1. 99	66. 3	70. 0	78. 7	84. 9
H11～H13	828, 521	3, 887	2, 039	3. 6	1. 91	68. 6	71. 2	78. 7	86. 7
H14～H16	825, 199	4, 324	2, 154	3. 5	2. 01	69. 5	72. 0	79. 7	84. 7
H17～H19	818, 405	5, 017	2, 251	2. 7	2. 23	74. 6	76. 7	82. 7	87. 5
H20	811, 464	5, 390	2, 356	3. 3	2. 29	75. 5	78. 1	83. 6	87. 3
H21	807, 633	5, 786	2, 344	2. 2	2. 47	77. 1	78. 9	84. 1	89. 3

※複数年については平均数および率である。

I：罹患数（上皮内がんを含む） M：死亡数 R：届出患者数 HV：組織学的診断実施数
 MV：顕微鏡学的診断実施数 DCO：死亡票のみのものの割合
 自主的届出登録：自主的届出による登録（罹患数から死亡票のみのものと補充票による登録を除く）

福井県がん登録は、届出漏れの少ない精度の高いがん登録を目標としてきた。

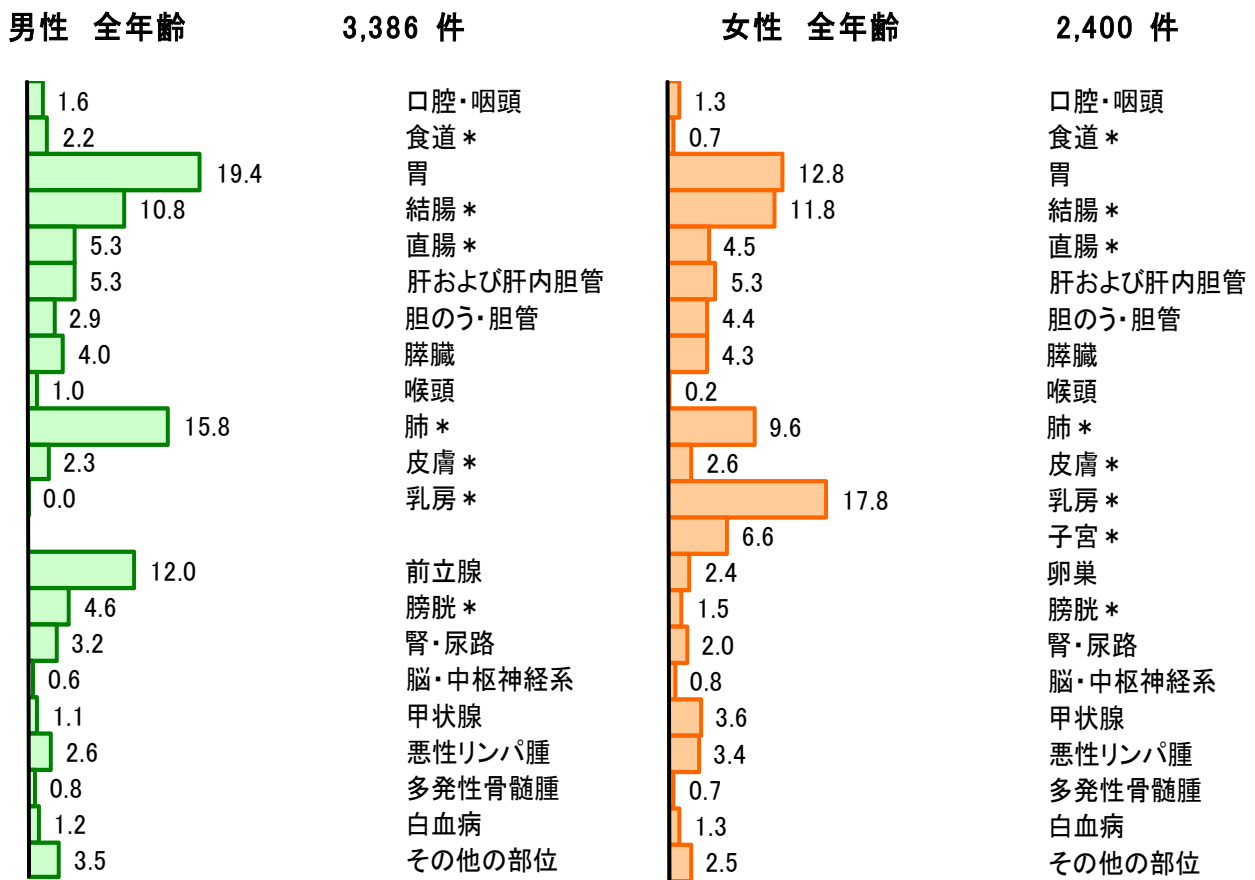
平成 21 年の自主的届出登録率は 89.3%と、依然高い率を維持している。また、死亡票のみで登録されたものの割合（DCO）は 2.2%であり、ここ数年間 5%を切る高い届出精度となっている。顕微鏡学的診断実施率は 84.1%と、診断精度を示す値はより改善し、自主届出率も過去最高となった。

今後も精度を落とさずに、罹患から 3 年以内に報告書をまとめるためには、引き続き各医療機関からの早めの届出と遡り調査への協力が必要と思われる。

罹患の概要

平成 21 年に福井県において、男性延べ 3,386 件、女性延べ 2,400 件の、合計延べ 5,786 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、直腸、肝と続く。女性で最も多いがんは乳がんであり、胃、結腸、肺、子宮と続く（図 1）。

図 1 部位内訳 (%) (表 1-A、B から作成)



* 上皮内がん含む

(1) 罹患とその年次推移

表2に、福井県におけるがんの罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の年次推移を示した。

表2 悪性新生物罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の推移

—全部位・性別— 昭和59年～平成21年

年	罹患数			粗罹患率			年齢調整罹患率			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
全部位1	S59～S61	1,439	1,243	2,682	363.1	295.8	328.5	250.8	178.2	207.7
	S62～H1	1,570	1,282	2,852	393.2	303.5	347.1	253.1	171.3	204.5
	H2～H4	1,728	1,364	3,092	431.4	322.0	375.1	258.9	174.4	208.8
	H5～H7	1,911	1,498	3,409	476.0	352.7	412.6	267.4	181.1	216.4
	H8～H10	2,191	1,639	3,830	544.9	384.8	462.6	283.6	187.4	227.0
	H11～H13	2,170	1,717	3,887	539.6	402.7	469.1	261.4	183.9	216.2
	H14～H16	2,460	1,864	4,324	615.7	438.0	524.0	270.2	187.9	222.0
	H17～H19	2,867	2,150	5,017	725.1	508.3	613.0	304.1	221.0	255.3
	H20	3,074	2,316	5,390	785.5	551.2	664.2	311.7	231.7	265.3
	H21	3,386	2,400	5,786	870.1	573.5	716.4	339.3	237.3	280.5

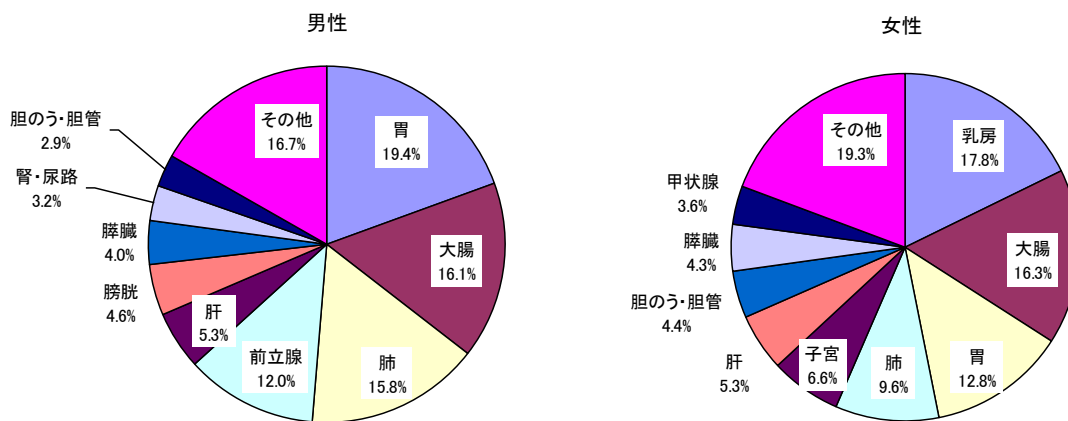
※複数年については平均数および率である。

注1：率：人口10万対 注2：調整罹患率の基準人口は世界人口 全部位1：上皮内がんを含む

平成21年は、平成20年と比較すると、罹患数、粗罹患率、年齢調整罹患率ともに増加した。

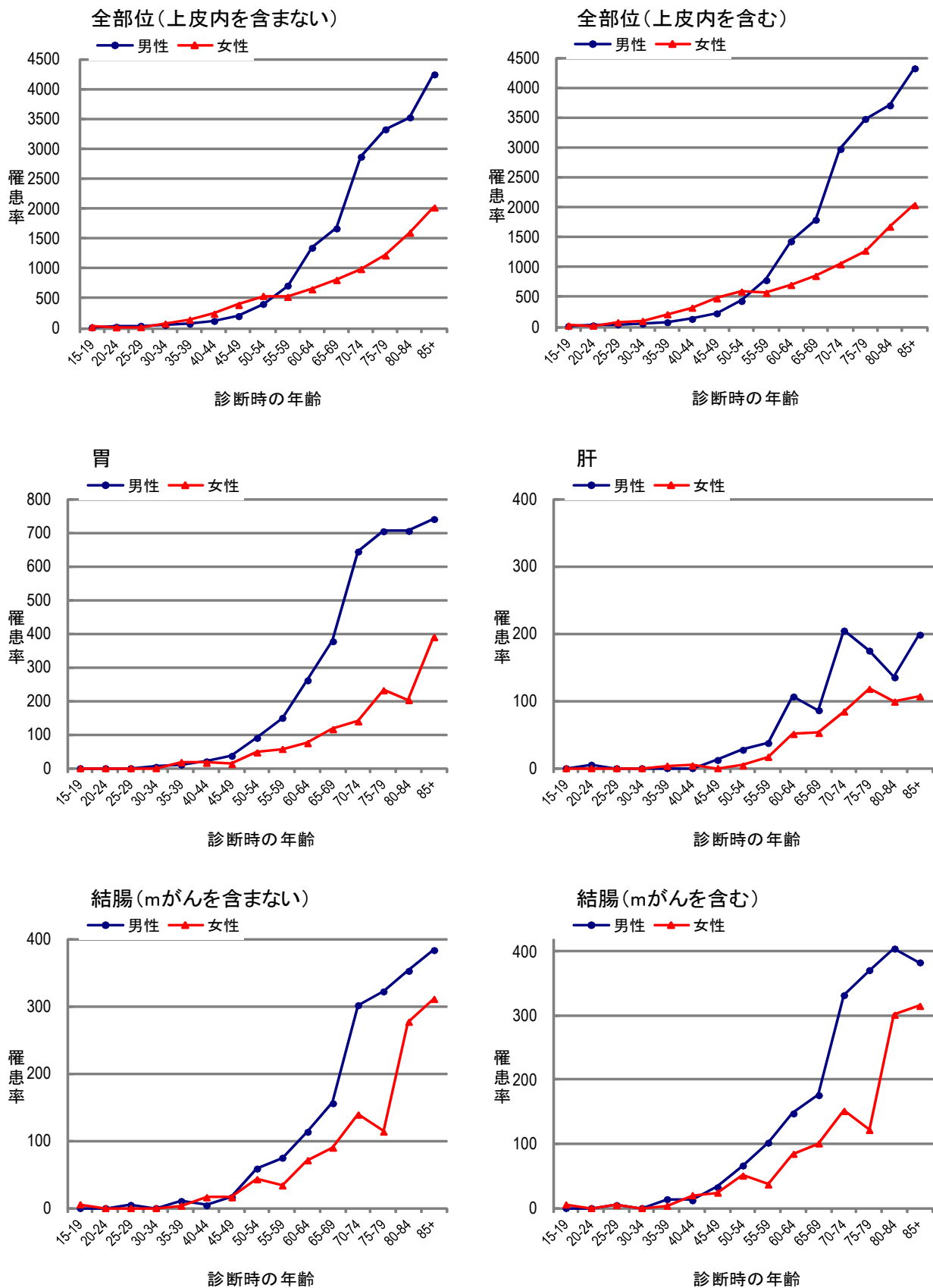
(2) 部位別に見たがんの罹患

図2 部位別罹患割合（上皮内がんを含む）（表1-A、Bから作成）

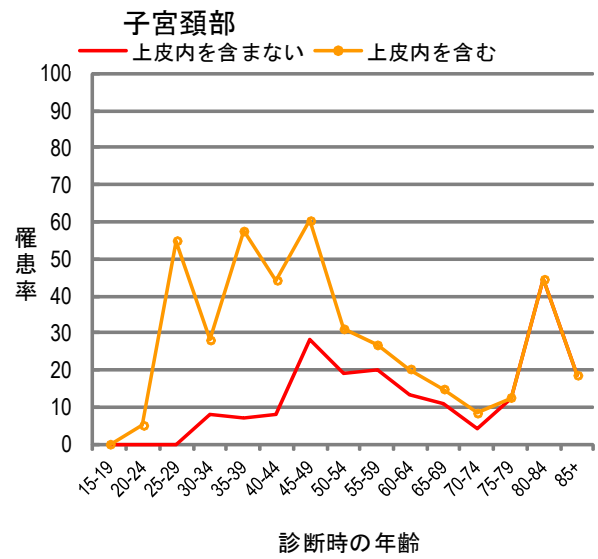
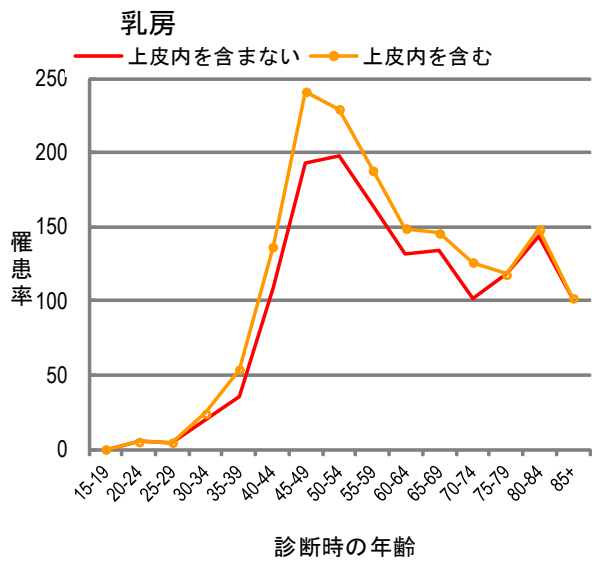
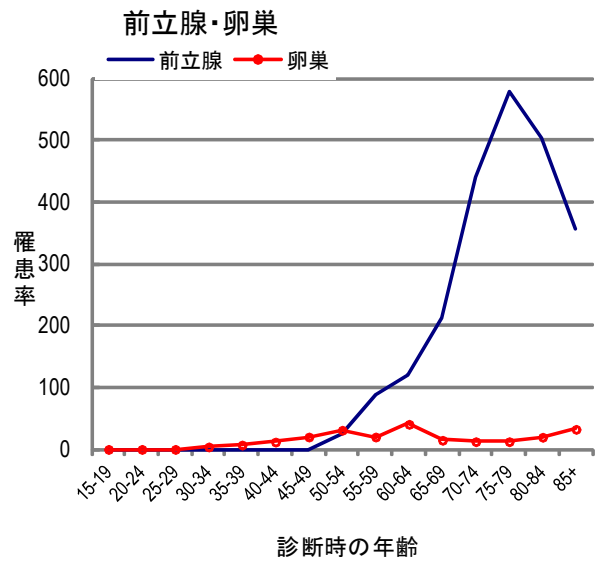
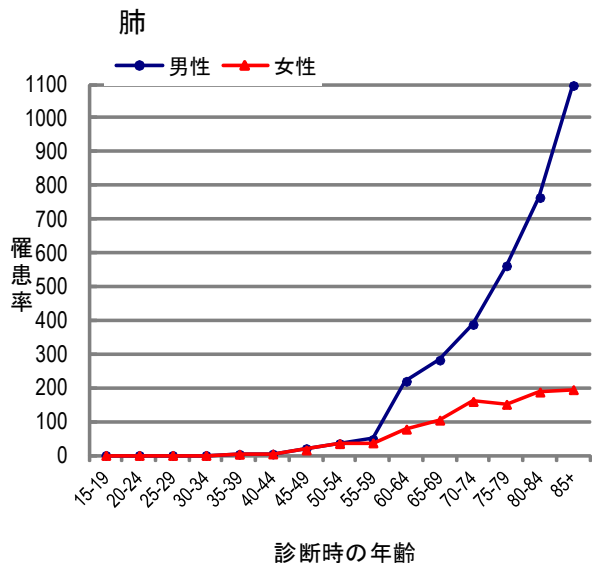
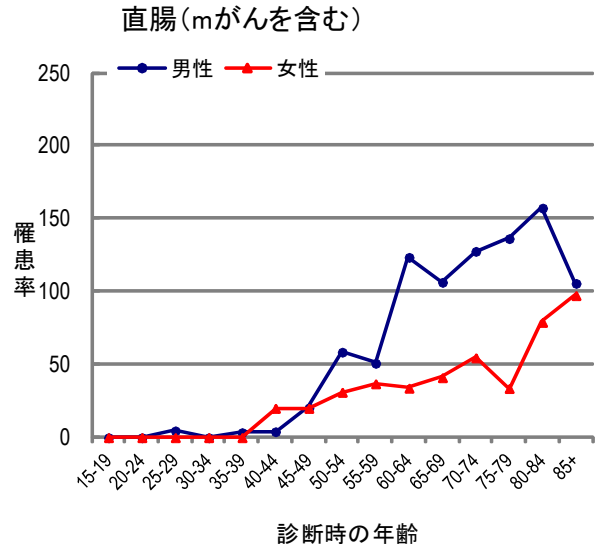
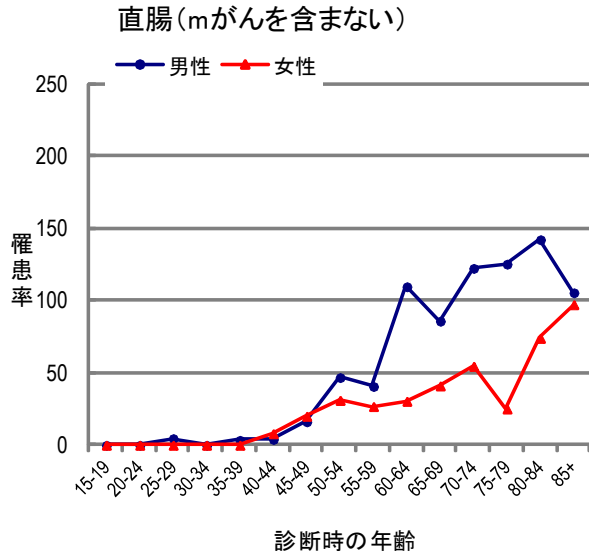


男性は、胃（19.4%）、大腸（16.1%）肺（15.8%）、前立腺（12.0%）、肝（5.3%）の順に罹患が多く、大腸の割合が増加し、肺と大腸が入れ替わった。女性は、乳房（17.8%）、大腸（16.3%）、胃（12.8%）、肺（9.6%）、子宮（6.6%）の順に罹患が多く、乳房が大腸を上回り順位が入れ替わった（図2）。

図3 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対（表3-A、Bから作成）



注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。



(3) 部位別罹患の年次推移

表3に、昭和59年から平成21年までの罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の推移を男女計で主な部位別に示した。

表3 主な部位別罹患数、罹患率の推移

A) 罹患数の推移

—男女計—

昭和59年～平成21年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
S59～S61	2,682	31	821	213	128	157	121	98	270	141	128	56	69	62	45
S62～H 1	2,852	39	818	257	148	187	143	110	307	143	114	54	71	68	49
H 2～H 4	3,092	43	823	288	157	220	145	121	349	177	114	60	79	75	47
H 5～H 7	3,408	49	801	363	174	247	158	142	384	204	108	91	98	90	51
H 8～H10	3,830	56	876	406	227	266	174	149	458	223	108	132	117	104	51
H11～H13	3,887	63	834	444	210	268	168	152	463	244	122	138	130	108	48
H14～H16	4,324	76	852	474	211	304	177	179	535	289	115	239	142	126	57
H17～H19	5,017	92	896	547	270	296	182	203	640	371	161	329	163	150	57
H20	5,390	110	898	580	286	295	180	215	734	373	151	349	176	190	71
H21	5,786	91	965	649	287	307	204	238	766	427	158	405	194	168	71

B) 粗罹患率（人口10万人対）の推移

—男女計—

昭和59年～平成21年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
S59～S61	328.5	3.8	100.5	26.1	15.7	19.2	14.8	12.0	33.1	17.3	30.4	14.1	8.5	7.6	5.5
S62～H 1	347.1	4.8	99.5	31.3	18.0	22.7	17.4	13.4	37.4	17.4	26.9	13.5	8.6	8.3	6.0
H 2～H 4	375.1	5.2	99.9	34.9	19.1	26.7	17.6	14.7	42.3	21.4	27.0	15.1	9.6	9.1	5.7
H 5～H 7	412.6	6.0	96.9	44.0	21.1	29.9	19.1	17.1	46.5	24.7	25.4	22.8	11.9	10.9	6.1
H 8～H10	462.6	6.7	105.8	49.0	27.4	32.1	21.1	18.0	55.4	26.9	25.3	32.8	14.2	12.6	6.2
H11～H13	469.1	7.6	100.6	53.6	25.3	32.3	20.2	18.4	55.8	29.4	28.5	34.3	15.7	13.0	5.8
H14～H16	524.0	9.3	103.2	57.5	25.5	36.9	21.4	21.7	64.8	35.0	26.9	59.9	17.2	15.3	6.9
H17～H19	613.0	11.2	109.5	66.8	33.0	36.1	22.3	24.8	78.2	45.4	38.1	83.2	19.9	18.3	7.0
H20	664.2	13.6	110.7	71.5	35.2	36.4	22.2	26.5	90.5	46.0	35.9	89.2	21.7	23.4	8.7
H21	716.4	11.3	119.5	80.4	35.5	38.0	25.3	29.5	94.8	52.9	37.8	104.1	24.0	20.8	8.8

C) 年齢調整罹患率（人口10万人対）の推移

—男女計—

昭和59年～平成21年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
S59～S61	207.7	2.2	63.3	16.0	9.8	11.7	8.6	7.0	19.3	12.9	20.6	8.7	4.9	4.8	4.4
S62～H 1	204.5	2.7	58.2	18.4	10.7	13.3	9.0	7.0	19.9	12.1	18.3	7.4	4.4	5.0	4.3
H 2～H 4	208.8	2.7	55.4	18.9	10.7	14.4	8.3	7.2	20.6	14.9	17.7	7.7	4.8	5.2	4.5
H 5～H 7	216.4	3.1	50.0	22.2	11.1	15.3	8.3	7.5	21.6	16.5	17.3	10.8	5.4	6.7	4.0
H 8～H10	227.0	3.3	51.0	23.2	13.6	15.7	8.1	7.2	23.2	17.6	17.1	14.5	6.0	6.5	4.3
H11～H13	216.2	3.4	45.2	23.5	12.1	14.3	7.0	7.3	21.9	18.6	19.2	13.5	6.4	6.6	3.7
H14～H16	222.0	4.0	42.4	23.1	11.3	14.4	6.4	7.8	22.8	21.2	18.2	22.5	6.5	6.9	3.5
H17～H19	255.3	4.9	43.0	26.0	13.8	13.4	6.4	8.5	26.2	27.8	26.9	30.4	6.8	8.1	4.3
H20	265.3	5.0	41.4	26.2	14.6	11.9	5.9	8.3	29.9	28.6	25.7	31.5	6.6	9.8	5.6
H21	280.5	4.2	41.1	28.6	15.1	13.3	6.8	9.0	30.0	32.1	27.9	34.8	7.7	9.5	4.7

※複数年については平均数および率である。

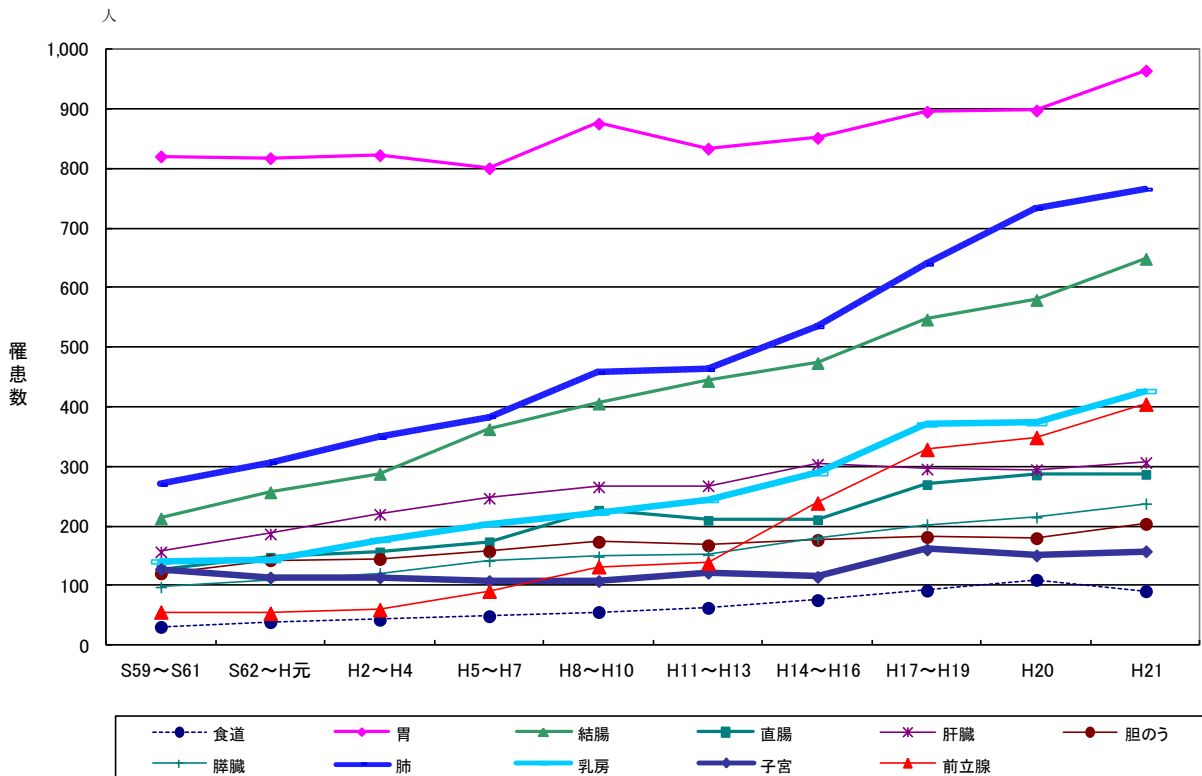
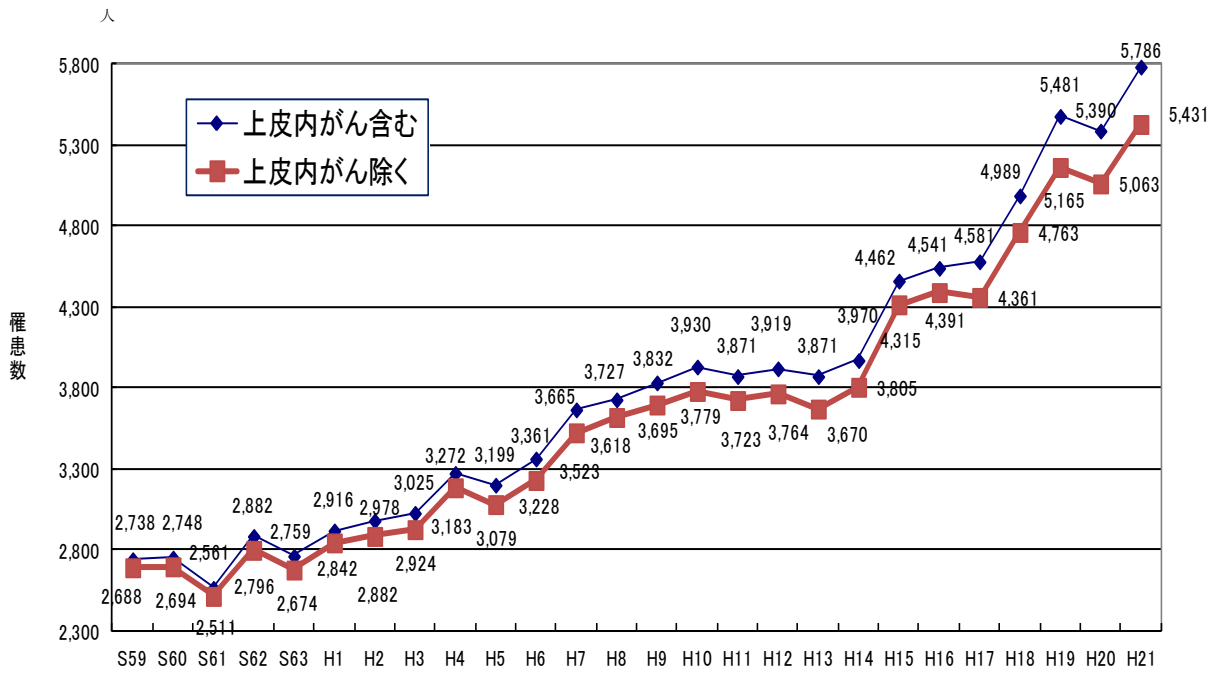
※胆嚢は胆管を含む。

※子宮がんは女のみ数および率を用いた。

※前立腺がんは男のみ数および率を用いた。

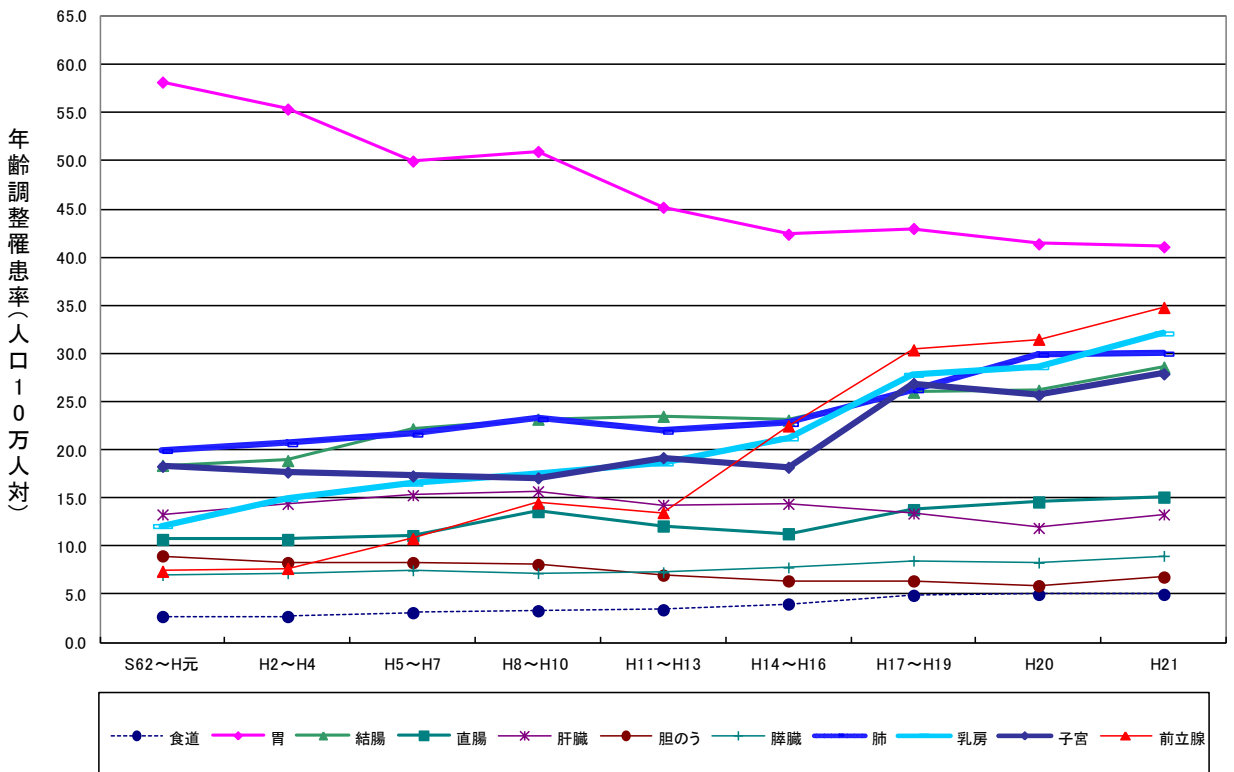
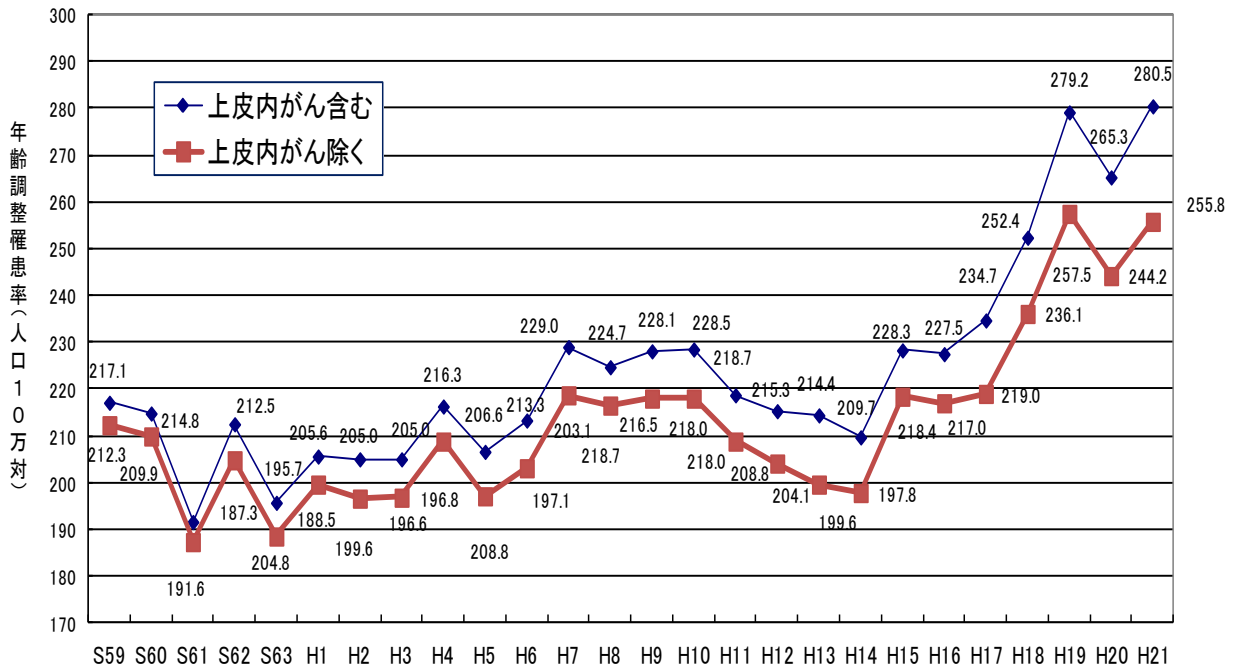
年齢調整罹患率で見ると、全部位のがんの罹患は年々増加している。特に、乳がん、前立腺がん、結腸がん、肝がん、子宮がんが増加している。

図4 主な部位別罹患数の推移 (男女計)



※ 胆のうは胆管を含む。
 ※ 複数年については、平均数である。

図5 主な部位別年齢調整罹患率の推移 (男女計)



※胆のうは胆管を含む。
 ※子宮がんは女のみの率を用いた。
 ※前立腺がんは男のみの率を用いた。
 ※複数年は、平均率である。

(4) 年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、平成 21 年に新たに診断されたがんについて、男女とも罹患者の 65%以上が 65 歳以上だった。一方、働き盛りの 40-64 歳の年齢層も全体の約 3 割を占めている。女性の 40-64 歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の 15-39 歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんと乳がんが多いためである (図 7)。

その他のほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほど罹患しやすい。主ながんの年齢階級別罹患率 (人口 10 万対) (標準集計表 表 3 A, B p43, 44) をみると、男性の大腸がんは 45 歳以上、胃がんは 50 歳以上、肺がん、前立腺がんは 55 歳以上から多くなるのが分かる。女性の乳がんは 30 歳以上から増え始め、45~49 歳で最も多い。女性の子宮頸がんは 25 歳~49 歳が多いが、子宮体がんは 55~59 歳が多い。

図 6 年齢別部位内訳 (%) (表 2-A, B から作成)

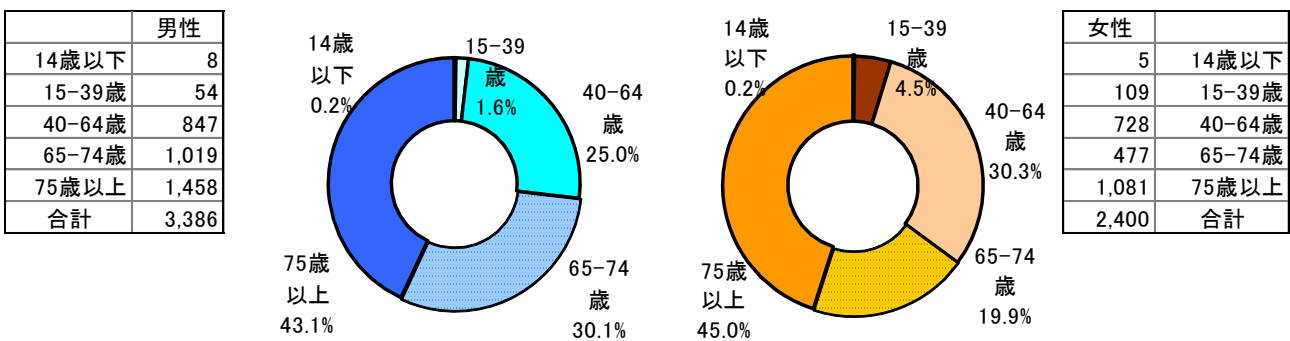
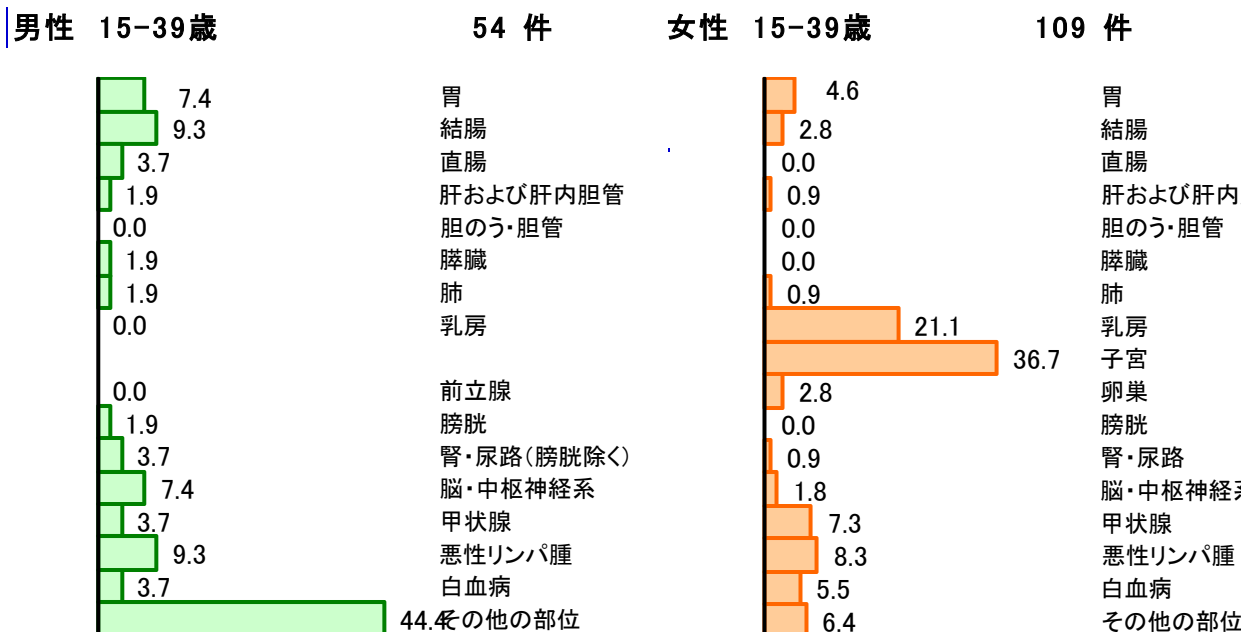


図 7 年齢別部位内訳 (%) (表 2-A, B から作成)

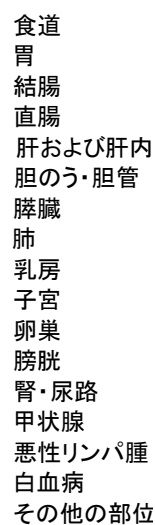
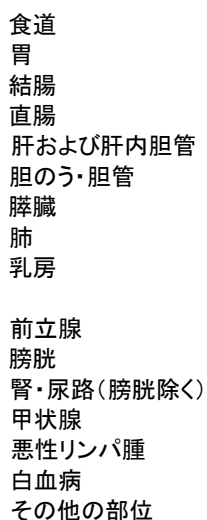
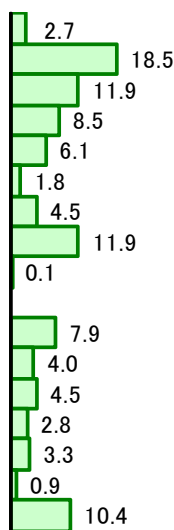


男性 40-64歳

847 件

女性 40-64歳

728 件

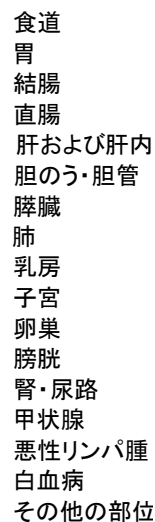
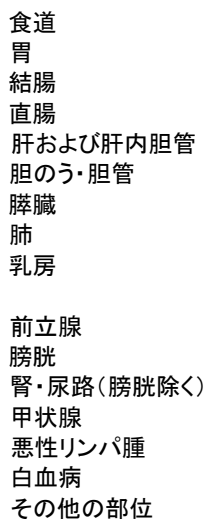
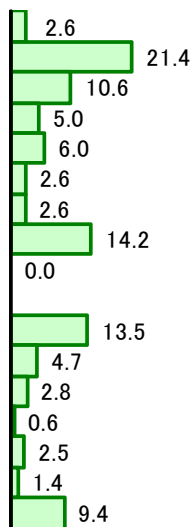


男性 65-74歳

1,019 件

女性 65-74歳

477 件

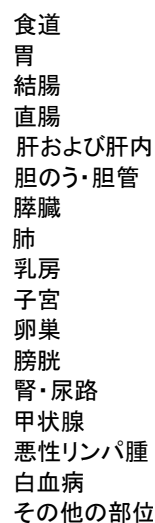
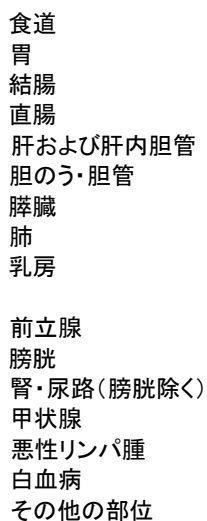
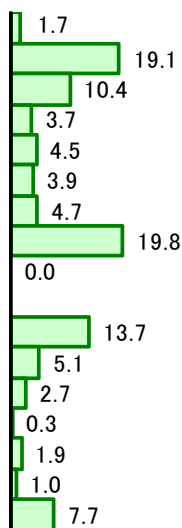


男性 75+歳

1,458 件

女性 75+歳

1,081 件



(5) 年齢階級別罹患順位

表4には、年齢階級別罹患順位を男女別に第3位まで示した。

表4 年齢階級別罹患部位順位 —男性—

平成21年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	胃	658	大腸	544	肺	535
30-34	悪性リンパ腫	3	脳	2	口腔、胃、皮膚、腎、甲状腺	1
35-39	大腸	5	胃	3	口腔	2
40-44	甲状腺	6	胃	5	大腸	4
45-49	大腸	13	胃	9	腎	7
50-54	大腸	32	胃	23	肺	9
55-59	大腸	45	胃	44	前立腺	26
60-64	大腸	79	胃	76	肺	64
65-69	胃	92	大腸、肺	69	前立腺	52
70-74	胃	126	大腸	90	肺	76
75-79	胃	129	前立腺	106	肺	103
80-84	肺	102	胃	94	大腸	75
85以上	肺	83	胃	56	大腸	37

※上皮内がんを含む

年齢階級別罹患部位順位 —女性—

平成21年

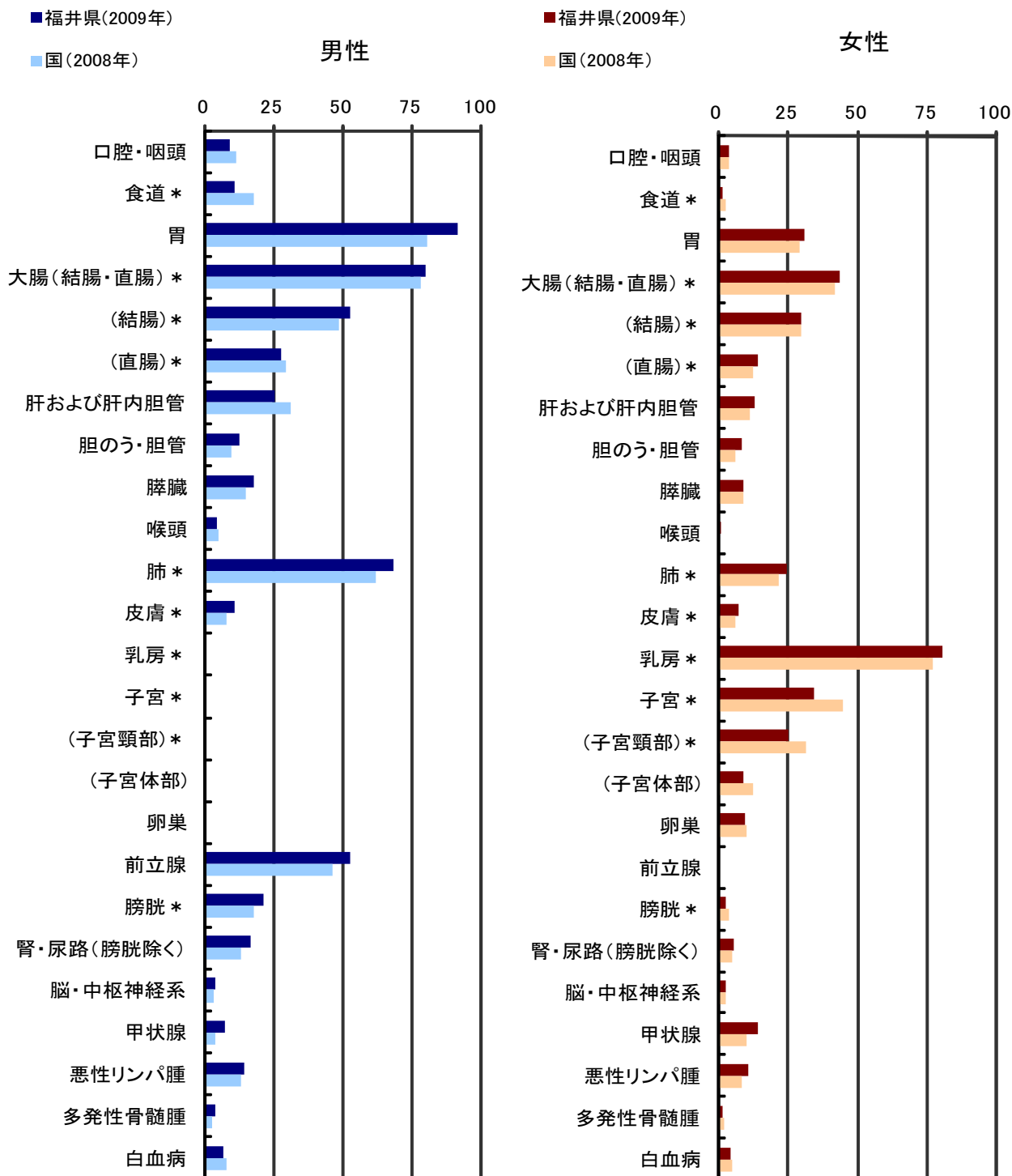
	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	乳房	426	大腸	392	胃	307
30-34	子宮頸部	7	乳房	6	甲状腺	4
35-39	子宮頸部	16	乳房	15	胃、悪性リンパ腫	5
40-44	乳房	34	子宮頸部	11	大腸	10
45-49	乳房	60	子宮頸部	15	大腸	11
50-54	乳房	59	大腸	21	胃	12
55-59	乳房	56	大腸	22	胃	17
60-64	乳房	44	大腸	35	肺	23
65-69	乳房	39	大腸	38	胃	31
70-74	大腸	49	肺	38	胃	33
75-79	胃	55	大腸	37	肺	36
80-84	大腸	77	胃	41	肺	38
85以上	大腸	89	胃	84	肺	42

※上皮内がんを含む

福井県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較すると、男女の胃、大腸、肺、甲状腺、男性の前立腺、女性の乳房の罹患率が高く、男性の食道、肝臓、女性の子宮は罹患率が低い。

図8 部位別がん年齢調整罹患率：人口10万対（表1-A、Bから作成）



国の値は、がん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2008年罹患数・率報告」より引用。

*上皮がん含む

登録の精度

(1) 届出の精度

表5には主な部位別に死亡票のみのものの割合の年次推移を示した。

表5 主な部位別死亡票のみの者の割合 (%) の推移 —男女計— 昭和59年～平成21年

年	全部位1	全部位2	胃	結腸	直腸	肝臓	胆のう	膵臓	肺	前立腺	乳房	子宮
S59～S61	6.8	6.9	4.9	5.8	4.7	13.6	8.3	10.5	9.7	7.1	2.1	2.6
S62～H 1	1.9	2.0	1.1	1.0	0.9	3.8	2.6	3.6	3.6	2.5	0.0	0.6
H 2～H 4	2.9	3.0	1.6	1.4	1.1	4.4	3.2	4.4	7.2	3.9	0.9	2.0
H 5～H 7	3.8	3.9	2.5	2.8	2.3	4.7	4.0	7.1	8.1	2.6	1.1	1.5
H 8～H10	5.3	5.5	3.6	3.9	3.4	6.8	6.9	7.8	9.2	2.3	1.8	3.7
H11～H13	3.6	3.8	3.1	2.8	1.4	4.6	5.4	4.6	5.2	2.7	1.5	1.9
H14～H16	3.5	3.6	2.6	2.0	1.4	3.5	6.4	6.9	6.8	1.8	0.9	1.7
H17～H19	2.7	2.8	1.9	1.3	1.5	4.3	5.1	5.3	5.4	1.1	1.0	0.8
H20	3.3	3.5	2.3	1.4	1.7	5.4	3.3	7.4	8.2	0.6	1.1	1.3
H21	2.2	2.4	2.1	1.7	1.7	4.2	5.4	2.9	4.4	0.2	0.5	0.0

※複数年については平均数および率である。

「全登録患者のうち、死亡票のみで登録されている者の割合 (%)」(DCO%)が小さいほど届出精度が高いと考えられる。死亡票のみの者の割合は、登録初期は全部位がんで9.1% (当時)であったが、年々改善され、昭和62～平成元年には2.4% (当時)と届出精度は最高となった。その後一時悪化した。近年、改善傾向にある。平成21年は前年の値3.3%よりも1.1%改善した。

(2) 診断の精度

表6には届出患者について主な部位別、顕微鏡学的診断実施率の推移を示した。顕微鏡学的診断には、生検、手術、剖検時の組織診と細胞診による診断がすべて含まれる。

表6 主な部位別顕微鏡学的診断実施率 (%) の推移 —届出患者・男女計— 昭和59年～平成21年

年	全部位1	胃	結腸	直腸	肝臓	胆のう	膵臓	肺	乳房	子宮	DCO %
S59～S61	78.3	87.9	83.1	85.2	27.4	55.5	42.9	73.7	93.6	93.0	6.8
S62～H 1	81.6	93.3	88.6	90.3	29.5	61.9	41.7	76.3	95.6	93.3	1.9
H 2～H 4	79.4	92.6	89.1	91.5	24.8	51.6	37.5	72.6	95.8	91.8	2.9
H 5～H 7	79.9	93.3	89.2	92.3	24.7	56.8	37.9	73.5	96.1	93.2	3.8
H 8～H10	78.7	92.2	89.5	92.6	20.3	47.8	27.6	75.3	94.3	91.3	5.3
H11～H13	78.7	93.1	90.0	94.1	18.5	42.3	29.8	73.6	95.5	92.3	3.6
H14～H16	79.7	93.2	90.4	93.0	21.1	45.4	27.6	75.4	95.7	93.0	3.5
H17～H19	82.7	93.2	92.8	94.6	19.1	49.7	37.8	74.8	96.2	96.5	2.7
H20	83.6	94.9	93.6	95.1	14.2	51.1	36.3	77.2	97.6	97.4	3.3
H21	84.1	95.1	91.2	96.5	19.2	52.9	37.8	77.0	98.4	94.9	2.2

※複数年については平均数および率である。

※胆のうは胆管を含む。

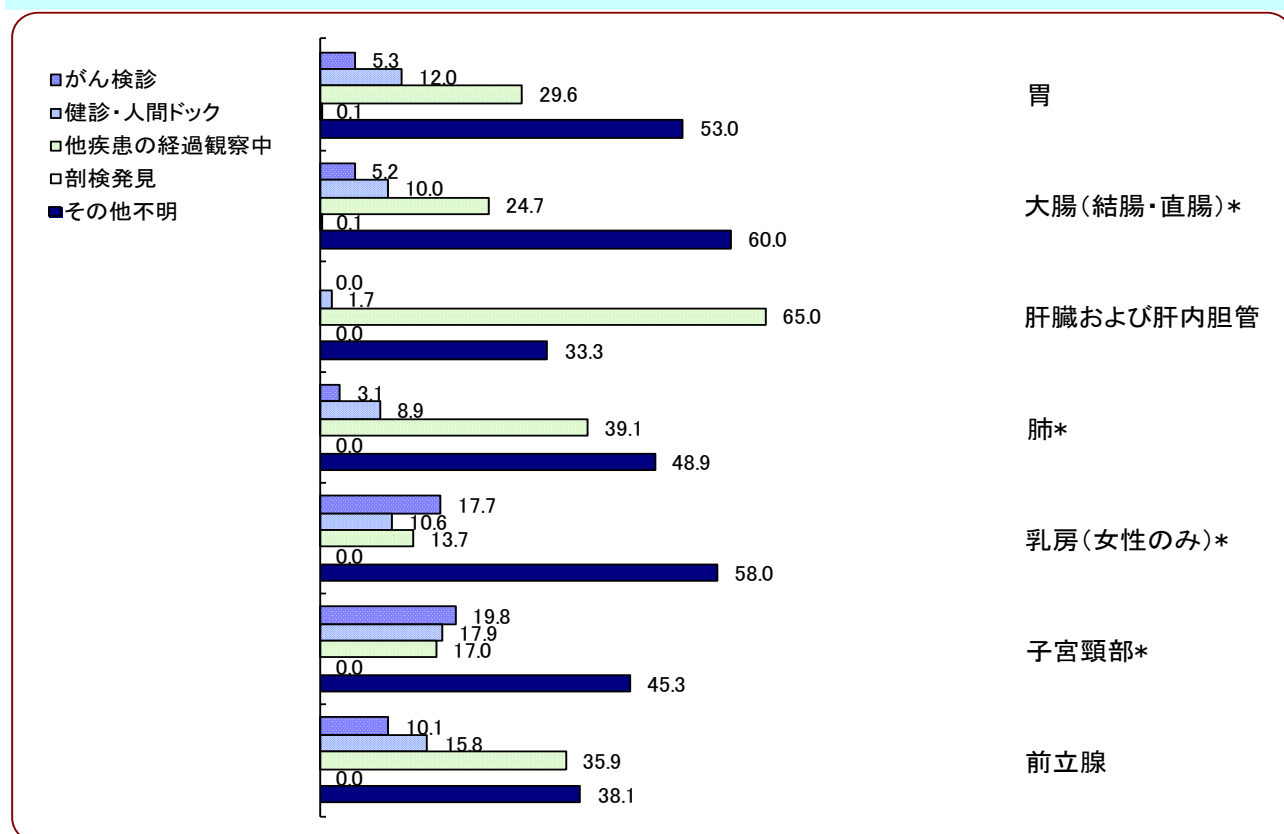
がんの診断が正確かどうかは病理組織診の有無による。その診断の精度をみる1つの目安である顕微鏡学的診断実施率は、例年全部位がんで80%前後を示しており、近年は80%を超えている。肝がん、胆のう胆管、膵臓がんは依然として低率であった。

発見経緯

一般に対策型によるがん検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 17.3%、大腸 15.2%、肺 12.0%、乳房 28.3%、子宮頸部 37.7%と胃、肺で前年の割合より減少し、大腸では横ばい、乳、子宮頸部では増加した。前立腺がんは、対策型がん検診には含まれないもののPSA検査が広く行われているため、25.9%と高かった。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

肝・肝内胆管において、他疾患の経過観察中の発見が多いのは、肝炎や肝硬変の治療中の発見によると考えられる。肺において、他疾患の経過観察中が比較的多いのは、生活習慣病などで受診している患者は、年1回程度胸部X-Pを撮影するためと考えられる。

図9 部位別発見経緯 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)

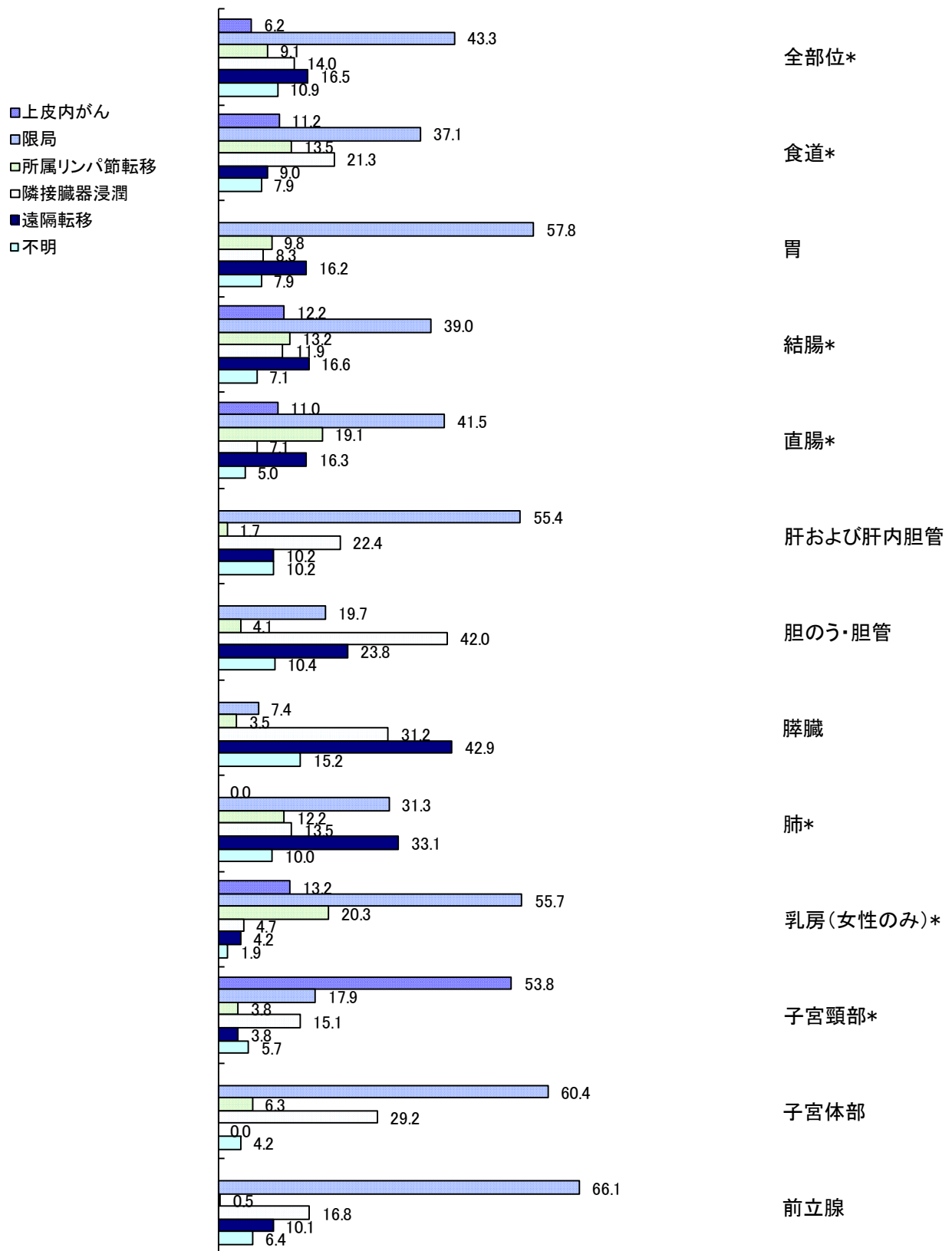


* 上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が高く、全部位では49.5%と平成20年と比較して0.3%減少した。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移があった割合が高い。胆のう・胆管・膵臓といった、腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位も、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

図 10 部位別発見時の病期 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 5-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

胃の限局には、mがんを含む。

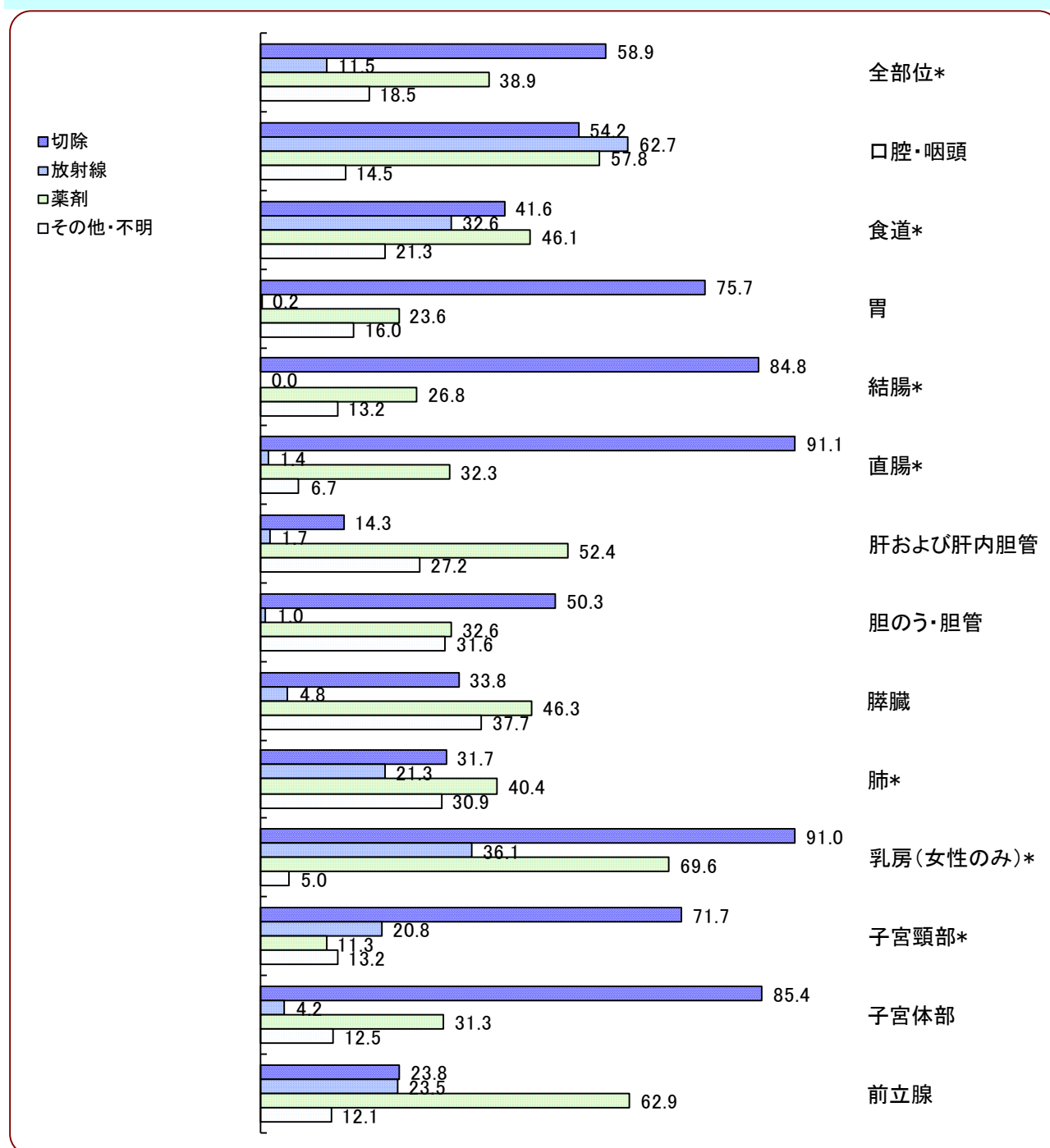
結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。

子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

初回治療の方法

胃、大腸などの消化管、乳房、子宮では、手術などの外科的治療の割合が高い。口腔・咽頭、食道、乳房、子宮頸部、前立腺では、薬剤や放射線による治療も比較的多く行われている。肺では、手術と薬剤（化学療法）が同じ程度行われている。前立腺の薬剤による治療は、ほとんど内分泌治療と考えられる。

図 11 初回治療の方法 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 6-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。

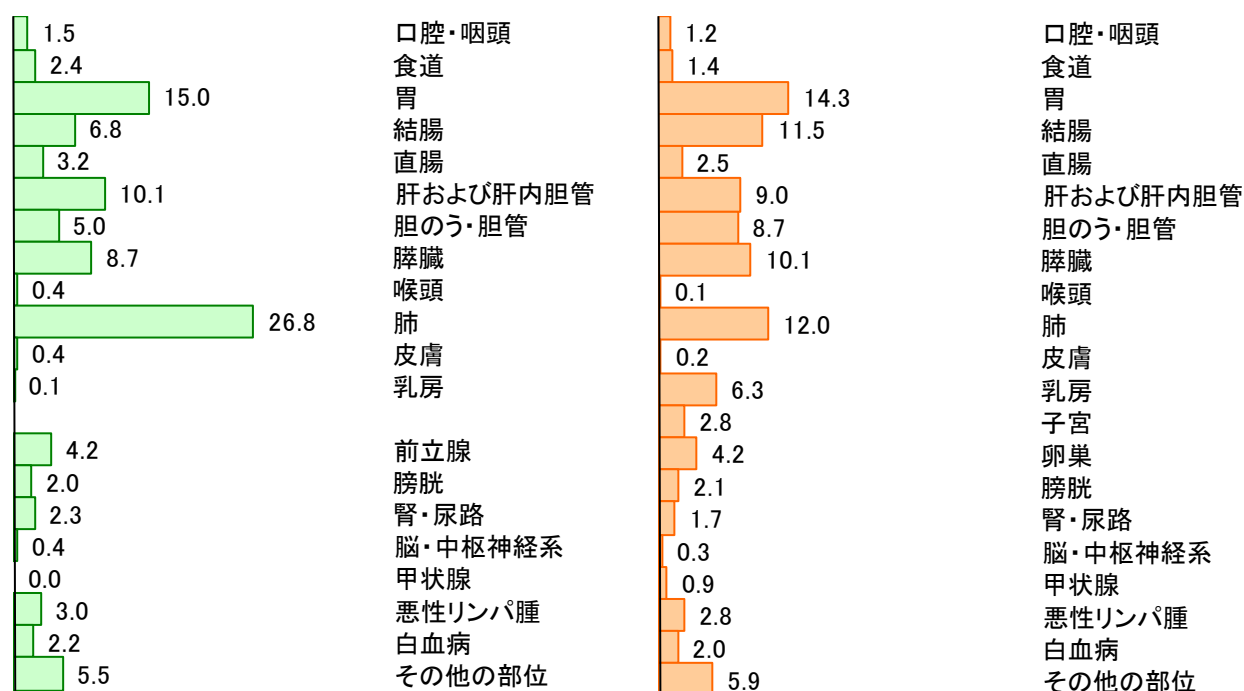
死亡の概要

平成 21 年の福井県の総死亡数は 8,187 人（男 4,177 人、女 4,010 人）で、うち悪性新生物による死亡は 2,344 人（男 1,412 人、女 932 人）で総死亡の 28.6%を占めた。

男性は肺がん、胃がん、肝臓がん、女性は胃がん、大腸がん、肺がんの順で死亡数が多い。

罹患数と比べると、男性で罹患の比較的多かった前立腺は、死因としてはそれほど多くないことがわかる。

図 12 部位内訳 (%) (表 9 から作成)



年齢別に見たがんの死亡

福井県で平成 21 年にがんで死亡された方は、男女とも 8 割以上が 65 歳以上の方であった。ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすくなるため、がんによる死亡者も高齢者が多い (図 13)。働き盛りの 40-64 歳のがんによる死亡率は、男性では胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝がん、女性では乳がん、子宮がんが高い (図 14)。39 歳以下のがんによる死亡は、男性では胃、大腸、膵臓、脳のがん、悪性リンパ腫および白血病であり、女性では胃、大腸、子宮がんおよび白血病である (標準集計表 表 11 p57)。

部位別に見ると、男性の胃、肺は 50 歳以上、大腸、膵臓は 55 歳以上、肝臓は 60 歳以上から増え始め、女性は、子宮が 30 歳以上、乳房は 45 歳以上、胃、大腸、肝臓、膵臓および肺は 65 歳以上から増え始める。

图 13 年齢内訳 (%) (表 10 から作成)

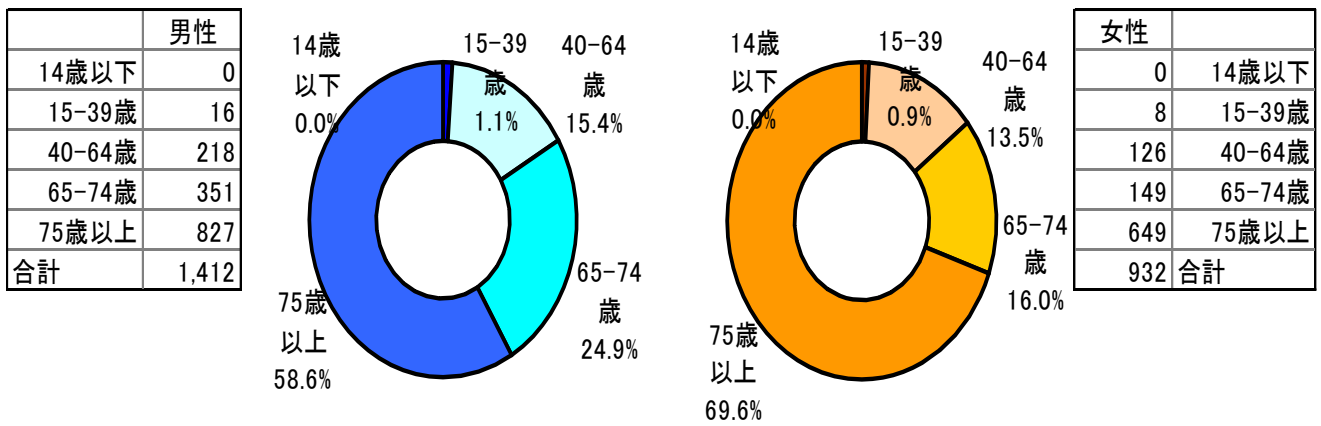
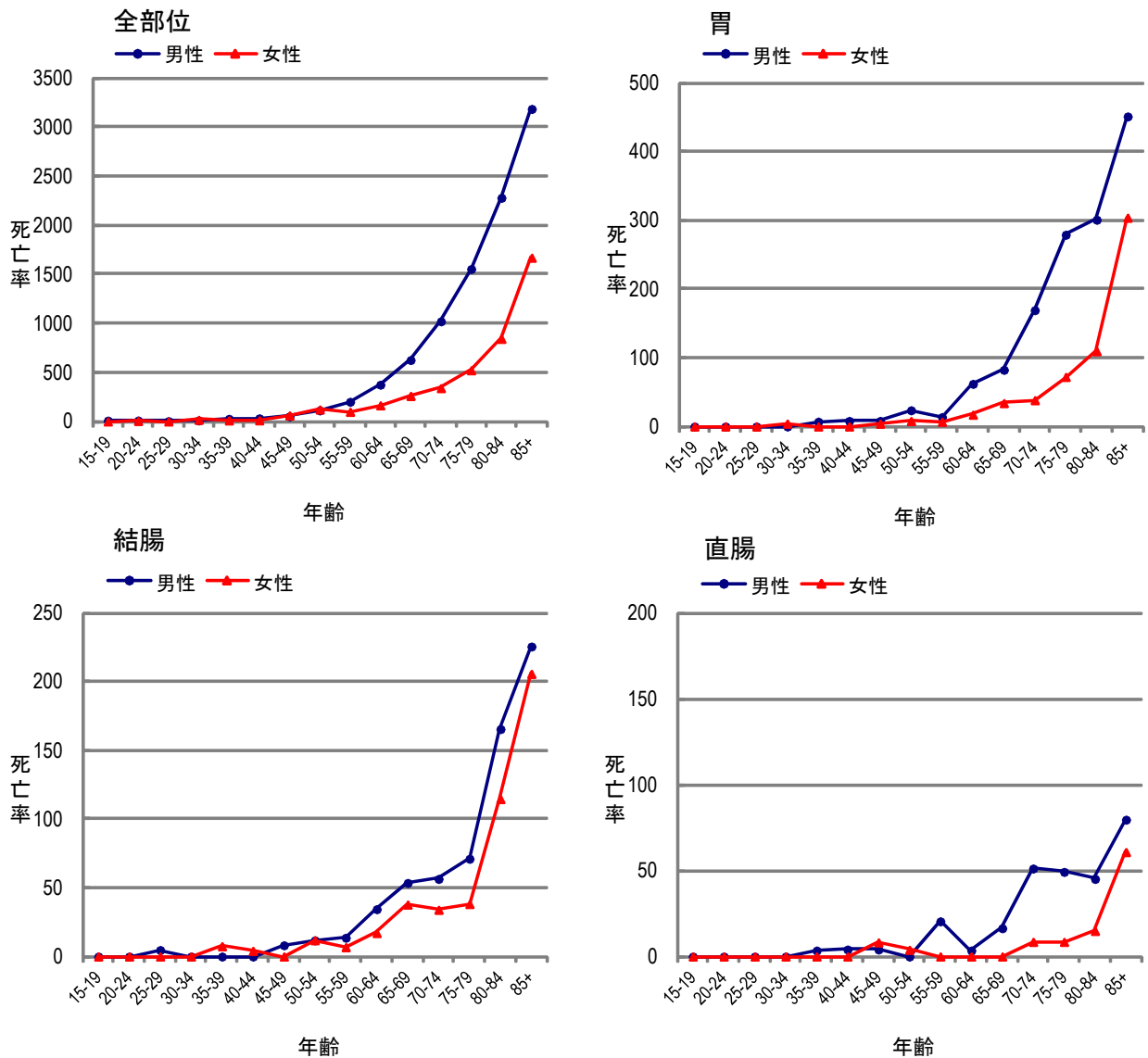


图 14 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対 (表 11 から作成)



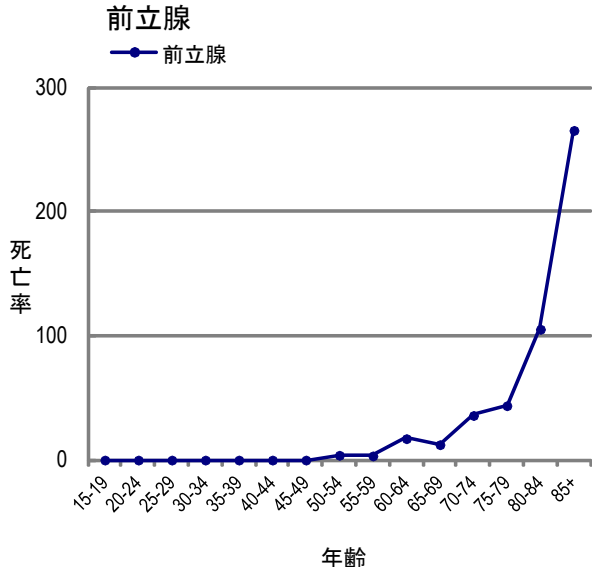
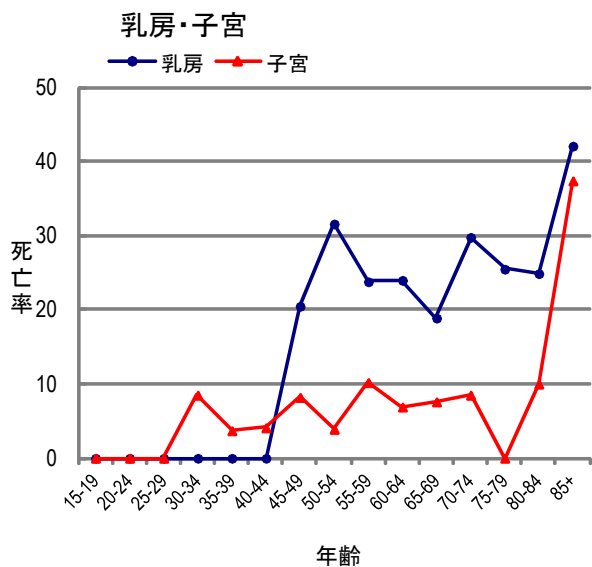
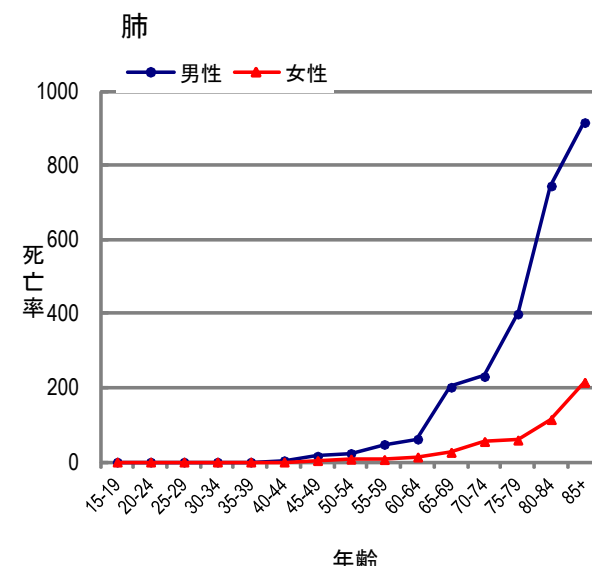
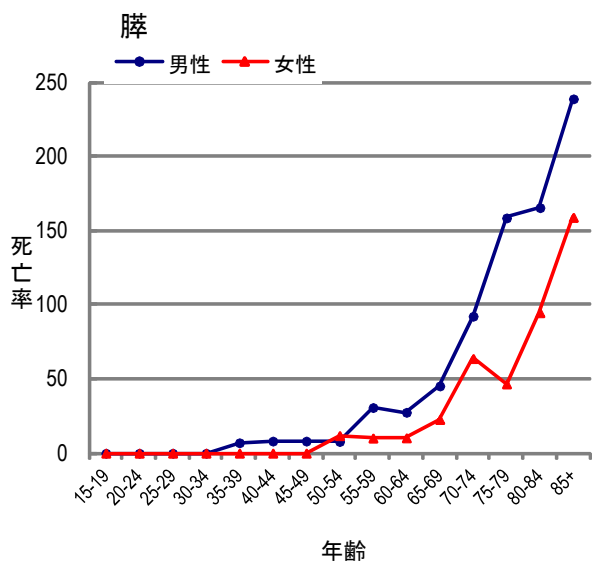
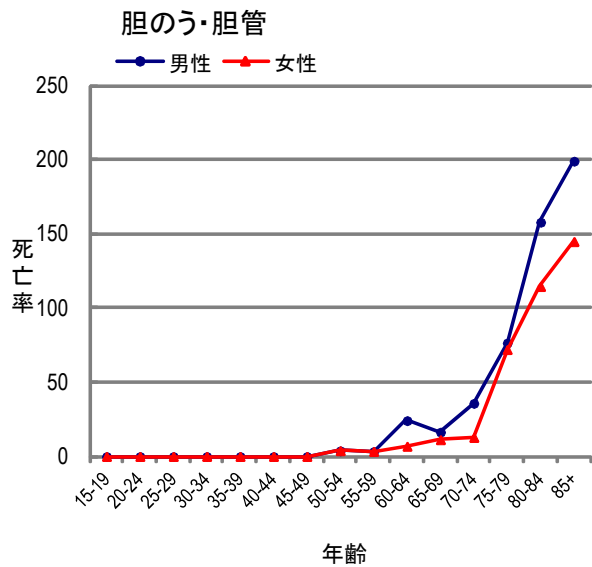
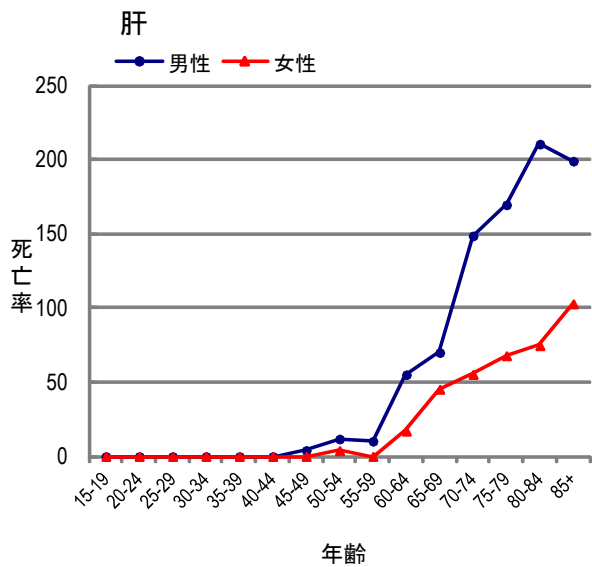


表7には、年齢階級別死亡順位を男女別に第3位まで示した。

表7 年齢階級別死亡部位順位 —男性—

平成21年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	肺	378	胃	212	肝臓	143
30-34	悪性リンパ腫	2	白血病	1	—	
35-39	胃、膵臓、脳・中枢神経	2	大腸、白血病	1	—	
40-44	胃、膵臓	2	口腔、大腸、肺	1	—	
45-49	肺	4	大腸	3	胃、膵臓	2
50-54	胃、肺	6	大腸、肝臓	3	食道、膵臓	2
55-59	肺	14	大腸	10	膵臓	9
60-64	胃、肺	18	肝臓	16	大腸	11
65-69	肺	49	胃	20	大腸、肝臓	17
70-74	肺	45	胃	33	肝臓	29
75-79	肺	73	胃	51	肝臓	31
80-84	肺	99	胃	40	大腸、肝臓	28
85以上	肺	69	胃	34	大腸	23

年齢階級別死亡部位順位 —女性—

平成21年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	胃	133	大腸	130	肺	112
30-34	子宮頸部	2	胃、白血病	1	—	
35-39	大腸	2	子宮頸部	1	—	
40-44	大腸、子宮頸部、卵巣	1	—		—	
45-49	乳房	5	卵巣	3	大腸	2
50-54	乳房	8	大腸、卵巣	4	膵臓、白血病	3
55-59	乳房	7	膵臓、卵巣	3	胃、食道、大腸、肺、子宮体部	2
60-64	卵巣	8	乳房	7	胃、大腸、肝臓	5
65-69	肝臓	12	大腸	10	胃	9
70-74	膵臓	15	肺、肝臓	13	大腸	10
75-79	胃、胆のう	17	肝臓	16	肺	14
80-84	大腸	26	肺、胆のう	23	胃	22
85以上	胃	65	大腸	57	肺	46

部位別死亡の年次推移

表8に、平成7年から平成21年までの死亡数、粗死亡率および年齢調整死亡率の推移を男女計で主な部位別に示した。

表8 主な部位別死亡数、死亡率の推移

A) 死亡数の推移 —男女計— 平成7年～平成21年

年	全部位	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆のう	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	1,780	38	343	147	65	194	138	127	318	45	30	36	30	51	37
H 8～H10	1,927	36	362	140	69	203	133	134	372	55	29	44	35	63	41
H11～H13	2,039	36	350	174	77	210	143	152	395	55	35	51	37	62	41
H14～H16	2,154	46	347	158	82	243	140	155	423	48	32	59	43	73	50
H17～H19	2,251	52	357	181	85	210	150	181	446	70	32	63	53	73	50
H20	2,356	52	312	184	85	187	153	199	527	62	30	73	55	94	57
H21	2,344	47	345	203	68	227	151	217	490	60	26	59	48	69	50

B) 粗死亡率（人口10万人対）の推移 —男女計— 平成7年～平成21年

年	全部位	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆のう	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	217.0	4.6	41.8	17.9	7.9	23.6	16.8	15.5	38.8	5.5	3.7	4.4	3.7	6.2	4.5
H 8～H10	234.7	4.3	44.1	17.1	8.4	24.7	16.2	16.3	45.4	6.7	3.5	5.3	4.3	7.6	5.0
H11～H13	248.9	4.4	42.8	21.2	9.4	25.7	17.4	18.6	48.2	6.7	4.3	6.3	4.5	7.5	5.0
H14～H16	263.9	5.6	42.5	19.4	10.0	29.7	17.1	19.0	51.9	5.8	3.9	7.3	5.2	8.9	6.1
H17～H19	278.2	6.4	44.2	22.4	10.5	26.0	18.6	22.3	55.1	8.7	7.7	16.1	6.5	9.0	6.2
H20	294.8	6.5	39.0	23.0	10.6	23.4	19.1	24.9	65.9	7.8	7.3	18.8	6.9	11.8	7.1
H21	295.3	5.9	43.5	25.6	8.6	28.6	19.0	27.3	61.7	7.6	6.4	15.3	6.0	8.7	6.3

C) 年齢調整死亡率（人口10万人対）の推移 —男女計— 平成7年～平成21年

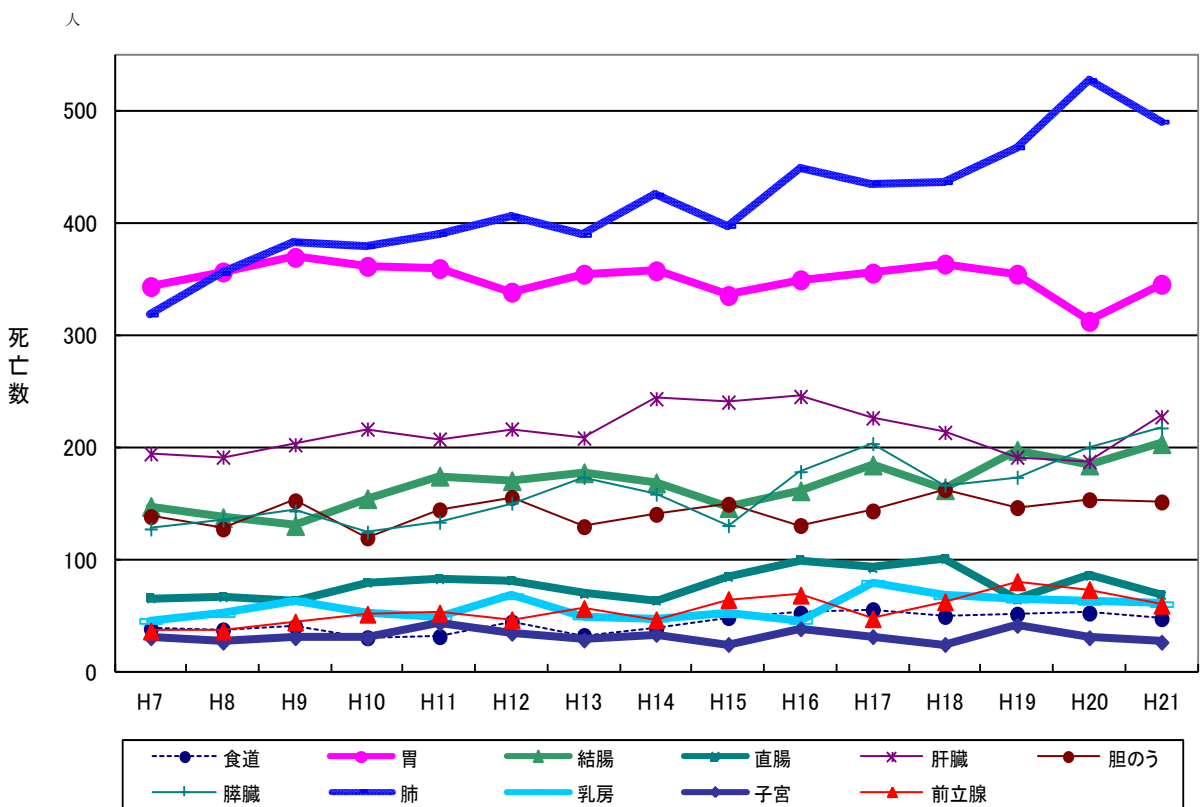
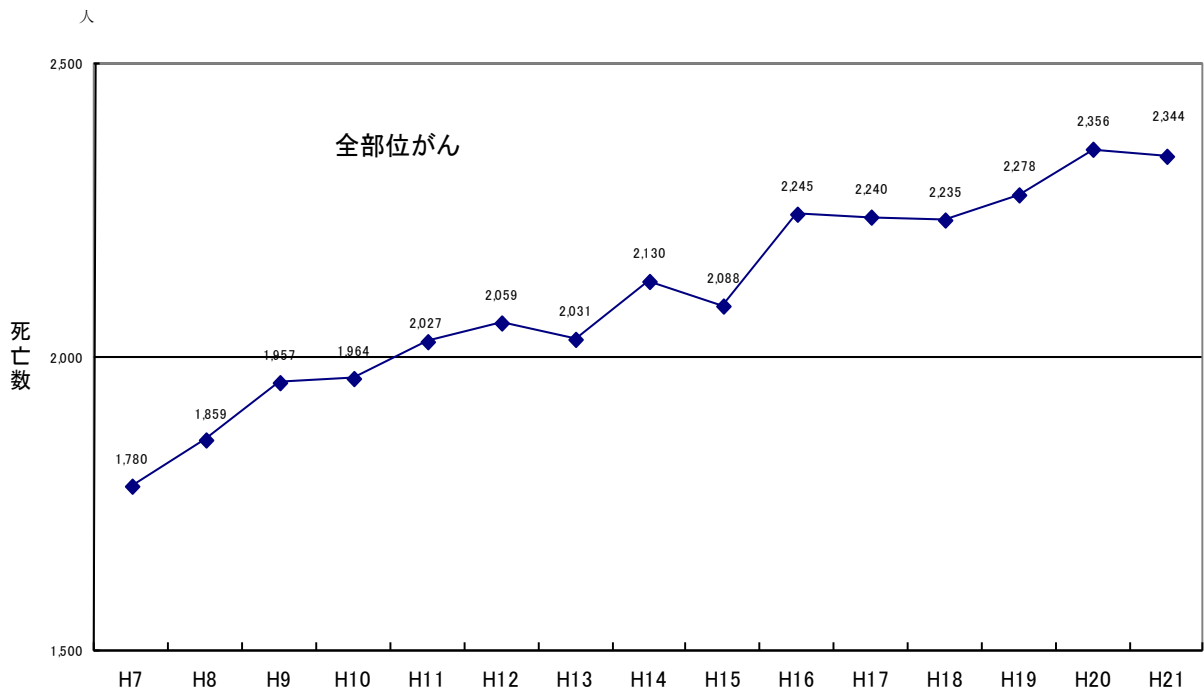
年	全部位	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆のう	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	129.9	3.2	26.6	11.4	5.0	16.0	10.2	9.8	24.3	4.2	4.1	6.5	1.9	4.2	3.4
H 8～H10	140.9	2.9	26.2	10.0	5.3	15.4	8.7	9.3	26.5	5.3	4.0	7.2	2.2	4.6	3.5
H11～H13	136.9	2.6	23.4	11.4	5.4	14.5	8.4	10.0	25.5	4.6	4.6	7.5	2.0	4.4	3.3
H14～H16	129.8	3.2	20.4	9.1	5.2	15.5	7.3	9.6	24.7	4.4	3.8	7.9	1.8	4.6	3.6
H17～H19	127.1	3.2	19.3	10.1	5.3	12.7	7.2	10.2	23.9	5.6	4.1	7.3	2.4	4.0	3.4
H20	127.8	3.4	16.6	9.2	4.8	10.2	7.1	11.4	27.8	5.3	5.1	8.3	2.4	4.5	3.3
H21	122.7	2.8	17.3	10.4	3.9	12.2	6.4	11.5	24.3	4.5	3.9	6.6	1.9	3.4	3.0

※複数年については平均数および率である。
 ※子宮がんは女のみ数および率を用いた。

※胆のうは胆管を含む。
 ※前立腺がんは男のみ数および率を用いた。

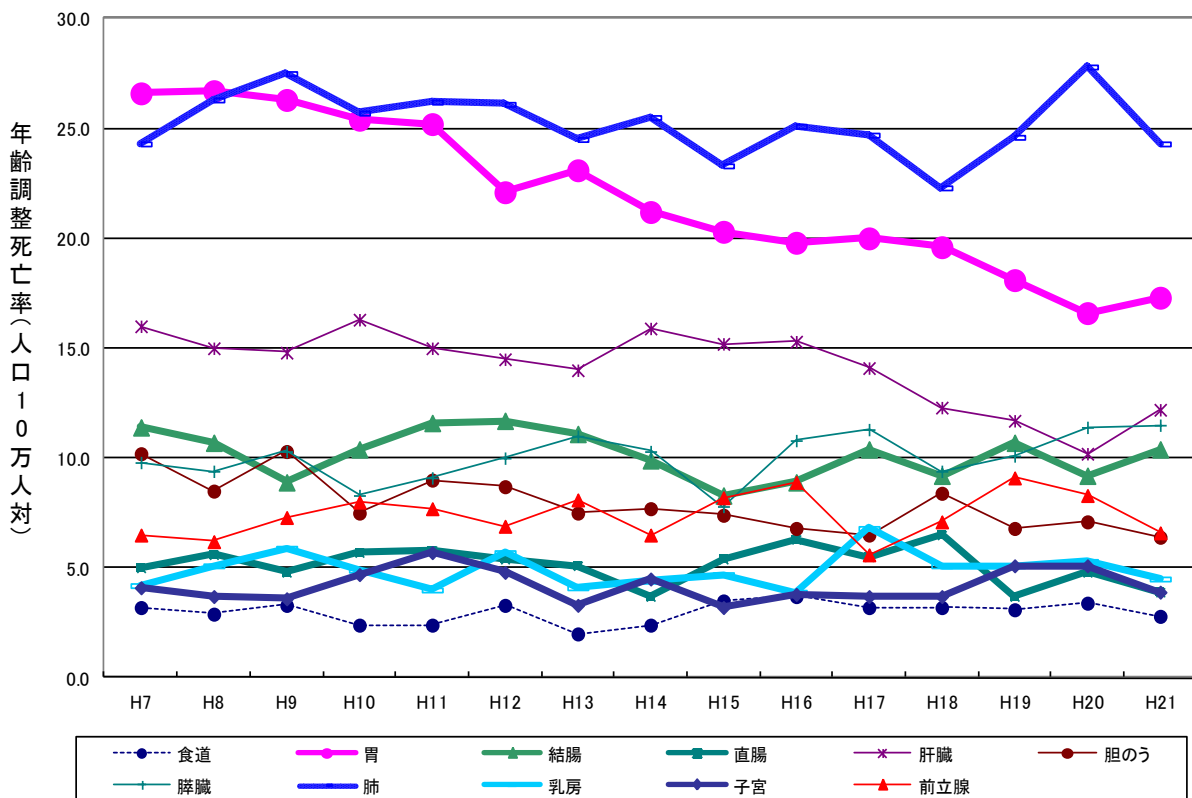
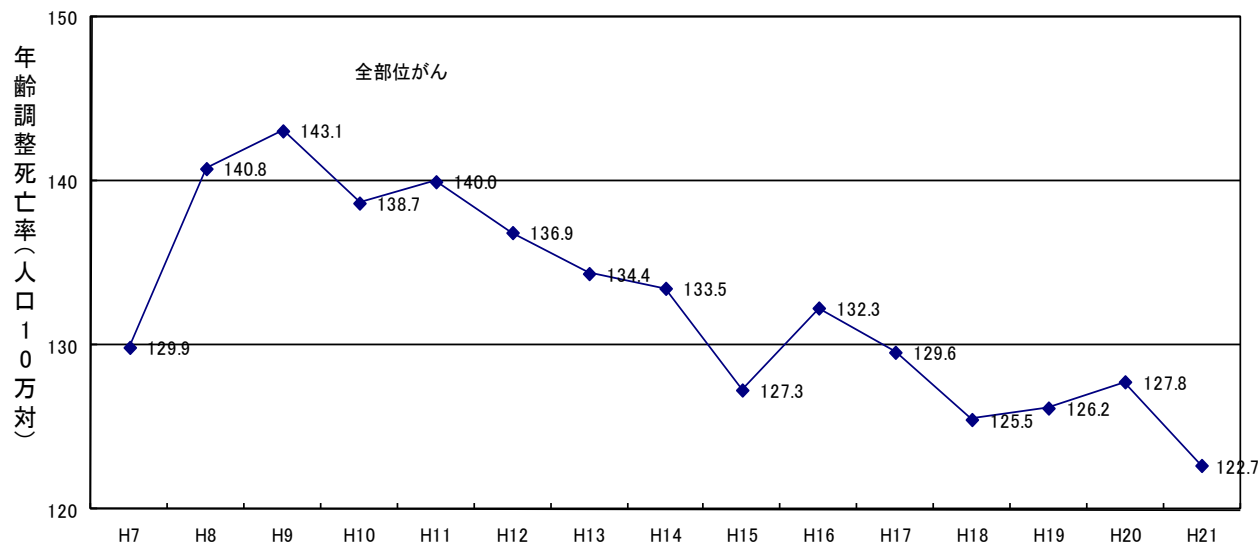
年齢調整死亡率でみると、全部位のがんの死亡は近年減少傾向であり、平成21年は平成20年と比較すると、減少している部位が多いが、胃がん、結腸がん、肝臓がん、膵臓がんの死亡率は増加した。

図 15 主な部位別死亡数の推移 (男女計)



※ 胆のうは胆管を含む。

図 16 主な部位別年齢調整死亡率の推移 (男女計)

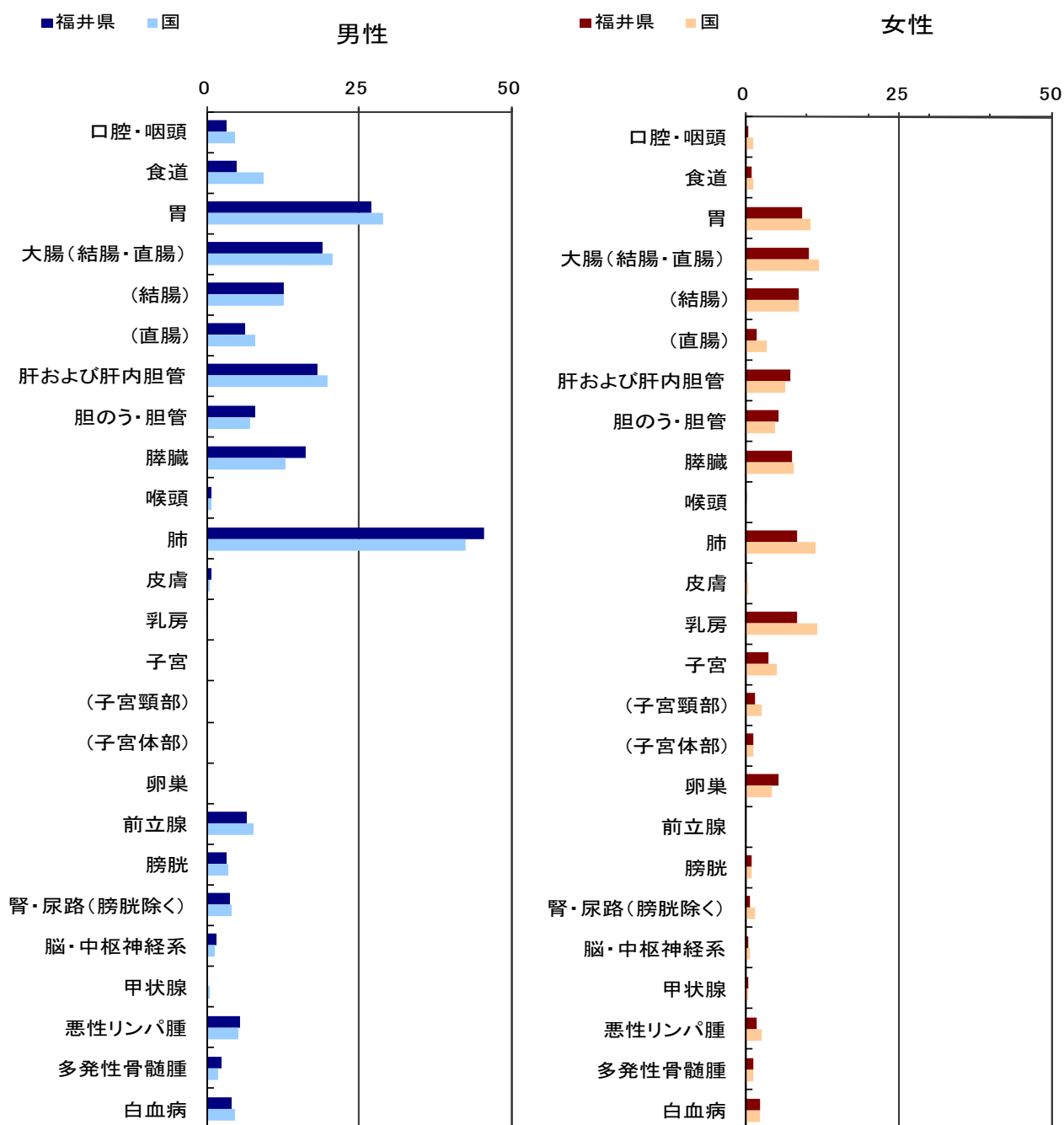


※胆のうは胆管を含む。
 ※子宮がんは女のみの率を用いた。
 ※前立腺がんは男のみの率を用いた。

福井県のがんの死亡の特徴

平成 21 年の福井県のがんの死亡は、ほとんどの部位において、日本全体と比較し、死亡率が低い。特に、男女の胃、大腸、男性の食道、肝、女性の肺、乳房、子宮においてその差が大きい。一方、男性の胆のう・胆管、膵臓、肺、多発性骨髄腫および女性の肝・肝内胆管、胆のう・胆管、卵巣は、全国値よりも死亡率が高い。

図 17 部位別がん年齢調整死亡率：人口 10 万対（表 9 から作成）



出典：「厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業 がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究 平成 23 年度 個別報告書 都道府県別がん死亡（2008 年～2009 年）」より

部位別 5年相対生存率（平成 18 年）

表 9には、届出患者について、平成 5年から平成 16年までの 3年ごとの 5年相対生存率の平均値および平成 17年と平成 18年の 5年相対生存率を比較して示した。

全部位（上皮内がんを含まない）の 5年相対生存率は、平成 18年は 61.7%となり、近年では最も高く、数値は改善傾向にある。

表 9 主要部位別 5年相対生存率

部 位	5年相対生存率					
	H5～H7	H8～H10	H11～H13	H14～H16	H17	H18
全部位	55.1	56.6	58.7	59.7	61.5	61.7
食 道	21.1	36.1	31.3	41.1	45.3	40.1
胃	67.0	66.1	68.2	68.8	68.6	66.2
結 腸	69.8	66.8	66.0	67.6	72.4	70.2
直 腸	59.4	68.2	65.8	64.7	71.1	73.0
肝 臓	17.7	26.8	34.0	29.8	29.7	28.7
胆のう胆管	24.2	18.8	24.4	23.3	17.1	20.3
膵 臓	8.7	8.1	6.7	6.9	4.3	12.6
肺	19.9	23.2	29.8	32.1	34.5	32.7
乳 房	84.3	88.1	87.6	90.4	91.4	92.2
子 宮	74.0	72.1	79.0	77.0	72.2	84.0
卵 巣	52.4	62.5	54.9	65.2	43.0	60.1
前立腺	70.6	74.3	90.4	94.9	88.8	97.4
膀 胱	83.7	78.8	88.3	81.5	79.5	85.9
甲 状 腺	92.8	93.9	93.3	90.8	94.0	91.8
リンパ組織	52.5	56.7	59.9	58.1	80.0	72.3
白血病	28.3	42.1	35.6	27.2	38.8	27.7

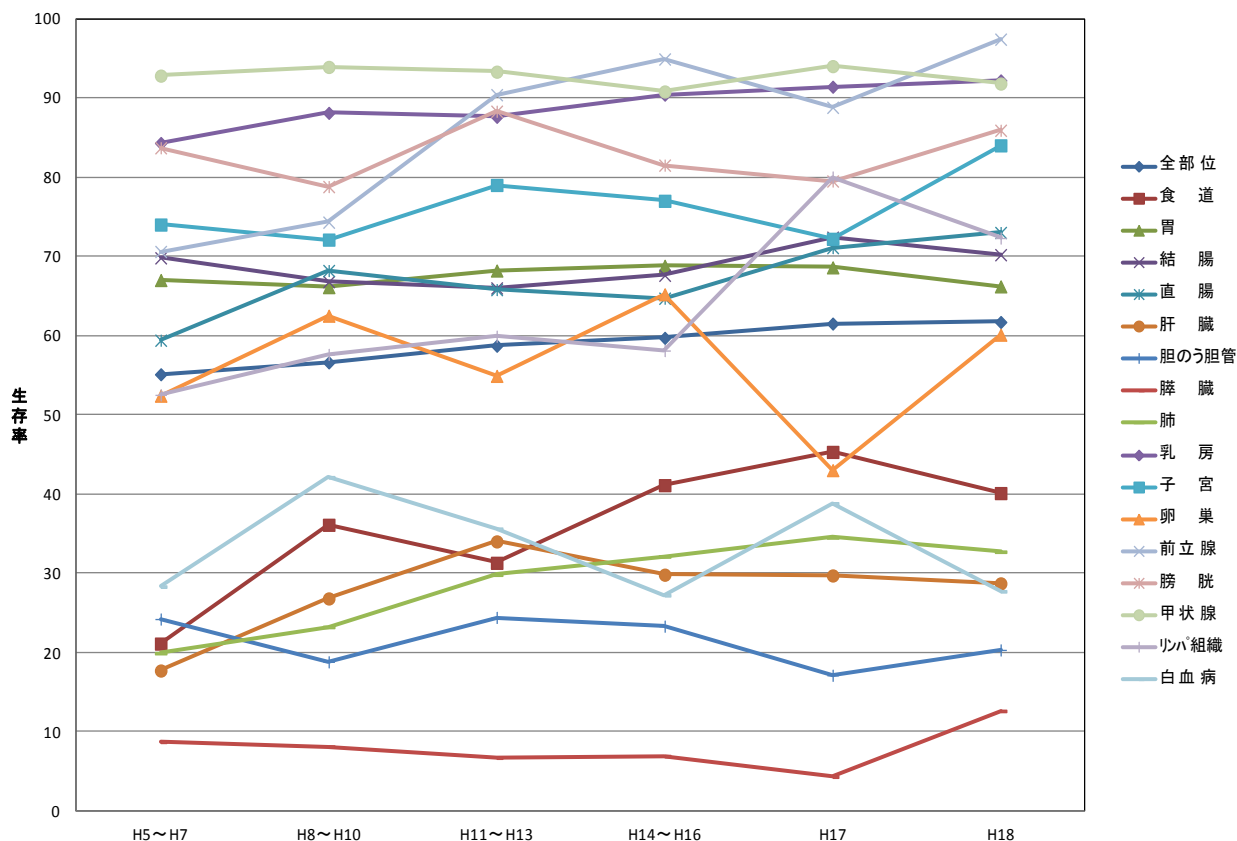
※ 複数年については平均率である。

※ 届出票による登録を対象にしており、補充票および死亡票のみで登録されたものは含まない。

※ 上皮内がんを除く。

図 18 では、ほとんどの部位において、生存率の上昇が認められた。特に、食道、前立腺、リンパ組織は H5～H7 の平均と H18 を比較すると 20%近く改善している。各部位の相対生存率の年次推移をみると、肺、乳がんでは緩やかに改善しており、特に乳がんにおいては近年生存率 90%を超えている。直腸、膵臓、子宮は近年改善傾向であるが、一方で胃、結腸および膀胱は横ばい、胆のう胆管では近年悪化傾向である。

図 18 部位別 5 年相対生存率 (表 12 から作成)



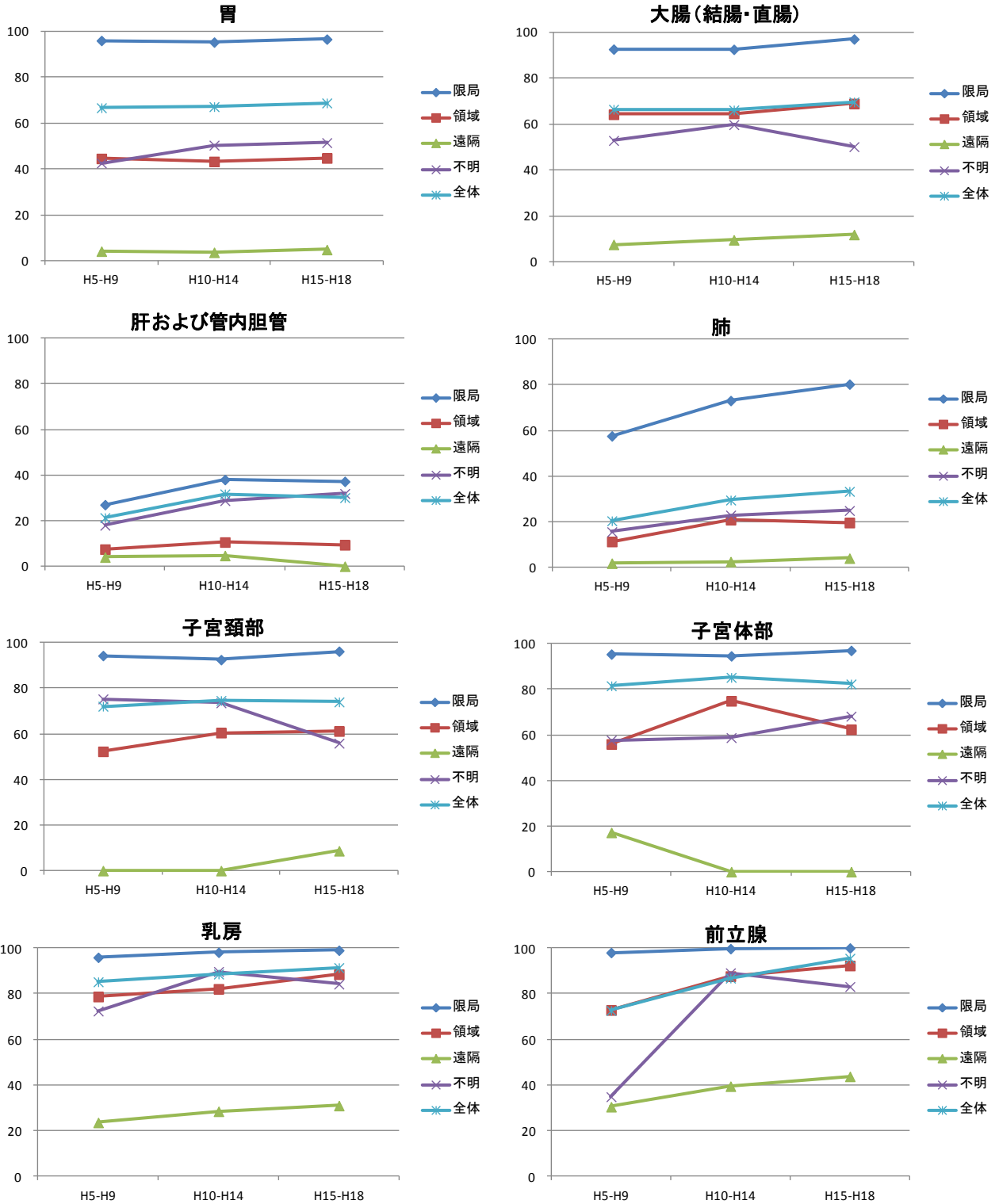
進展度別に平成 5 年から平成 18 年診断例までの 3 年単位でまとめた 5 年相対生存率を図 19 にて示した。

進展度別には、概ねどの進展度も改善傾向である。限局例ではほとんどの部位で上昇しており、領域例では大腸、肺、子宮頸部および乳房が、遠隔例では大腸、子宮頸部および乳房で上昇している。特に、肺がんの限局例および前立腺の領域例と遠隔例で大きく改善している。

平成 25 年 3 月に国立がん研究センターがん対策情報センターより『全国がん罹患モニタリング集計 2003-2005 年生存報告』(宮城県、山形県、新潟県、福井県、滋賀、大阪府、長崎県の診断例を用いた全国 5 年相対生存率集計値) が公表された。全国値については <http://ganjoho.jp/professional/statistics/monita.html> を参照されたい。

※進展度とは、地域がん登録で用いられている病期分類で、UICC TNM 分類との対比では、限局が I 期、領域が II 期+III 期、遠隔が IV 期におおよそ相当する。

図 19 部位別臨床進行度別 5 年相対生存率 (表 12 から作成)



おわりに

福井県がん登録事業にご協力いただいた各医療機関に深謝いたしますとともに、関係者の皆様のご支援に謝意を表します。

特に、登録作業の実務および本報告書の作成に多大なるご尽力をいただいた方々に感謝申し上げます。

(平成 25 年 6 月)